

令和6年度 子どもの読書の実態に関する調査の結果

1 調査の目的

岡山県下における子どもの読書実態の現状把握のため、小・中学生・高校生等の読書の実態に関する調査を実施したものを。

2 調査の対象

県内の小・中・義務教育・中等教育学校及び高等学校（私立も含む。）に在籍する児童生徒

3 調査の時期

令和6年10月1日から令和6年10月18日まで

4 調査の方法

県教育委員会において、県内の小・中・義務教育・中等教育学校及び高等学校（私立も含む。）の中から地域分布及び児童生徒の在籍数（令和6年5月1日時点）等を考慮して調査対象校を抽出し、調査対象学科・学年を指定した。

調査対象校において、指定された学科・学年の中から1学級を選び、「3 調査の時期」の間で、学級単位で一斉に調査を実施した。

調査への回答は、Google フォームにて行い、回答回収結果は以下のとおりであった。

	小学生(4～6年生) ※義務教育学校4～6年生を含む	中学生 ※義務教育学校7～9年生及び中等教育学校前期課程生を含む	高校生 ※中等教育学校後期課程生を含む
回答者数	503人(20校)	507人(18校)	462人(15校)
回答回収率	95.3%(503/528人)	96.9%(507/523人)	88.3%(462/523人)
県内校数	375校	167校	89校
県内児童生徒数	47,959人	49,327人	48,139人
調査対象校数	20校	18校	15校
調査対象者数	528人	523人	523人
抽出率	1.10%(528/47,959人)	1.06%(528/49,327人)	1.09%(523/48,139人)

5 調査の項目

問1 1か月の読書冊数（回答対象：全員）

問2 不読の理由（回答対象：問1で「全く読まなかった」と回答した児童生徒）

問2 本の入手方法（回答対象：問1で「全く読まなかった」と回答した児童生徒以外）

問3 1か月に利用した紙の書籍・電子書籍（回答対象：全員）

問4 学校図書館の利用頻度（回答対象：全員）

6 調査結果の見方

- ・グラフに付加している「n」は、特に記載のない限り、回答者数とする。
- ・調査結果の数値（%）は、特に記載のない限り、各質問への回答者数全体に対する割合とする。なお、小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100%ではない場合がある。また、複数回答の場合、構成比の合計が100%を超える。
- ・高校生の回答者数について、問1（1か月の読書冊数）で「1冊まではいかないが、読んだ」と回答した109人のうち2人が、問2（本の入手方法）で「その他…教科書」とのみ回答していたため、以下のとおり修正している。

		修正前	修正後
問1（1か月の読書冊数）	1. 全く読まなかった	n=198	n=200(198+2)
	2. 1冊まではいかないが、読んだ	n=109	n=107(109-2)
問2（本の入手方法）	回答者数	n=264	n=262(264-2)

1 読書の状況

① 1か月の読書冊数

本調査の対象者全員に対して、9月1か月間（朝読書や授業の時間を含む。）に、何冊ぐらい本を読んだかを質問した。

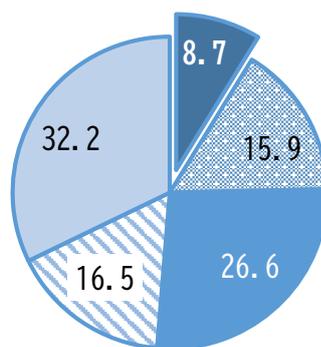
なお、本問における「本」の定義は以下のとおりとした。

- ・電子書籍を含む。
- ・マンガ、新聞、雑誌、教科書、学習参考書、絵・写真のみの画集や写真集は除く。

(1) 1か月の読書冊数 (%) 〈単一回答〉

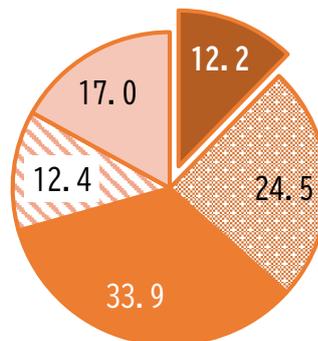
小学生 (n=503)

- 1. 全く読まなかった (n=44)
- 2. 1冊まではいかないが、読んだ (n=80)
- 3. 1～2冊読んだ (n=134)
- 4. 3～4冊読んだ (n=83)
- 5. 5冊以上読んだ (n=162)



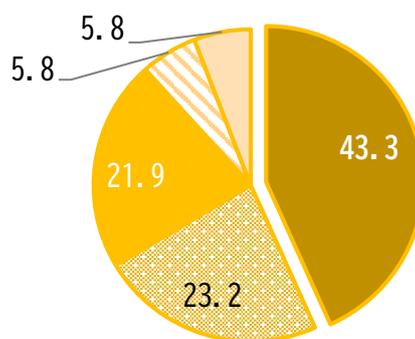
中学生 (n=507)

- 1. 全く読まなかった (n=62)
- 2. 1冊まではいかないが、読んだ (n=124)
- 3. 1～2冊読んだ (n=172)
- 4. 3～4冊読んだ (n=63)
- 5. 5冊以上読んだ (n=86)



高校生 (n=462)

- 1. 全く読まなかった (n=200)
- 2. 1冊まではいかないが、読んだ (n=107)
- 3. 1～2冊読んだ (n=101)
- 4. 3～4冊読んだ (n=27)
- 5. 5冊以上読んだ (n=27)



【参考】全国平均読書冊数（5月1か月間）

（公益社団法人全国学校図書館協議会「学校読書読査」より ※R2は調査中止）

◎「本」の定義…教科書、学習参考書、マンガ、雑誌やふろくを除く。

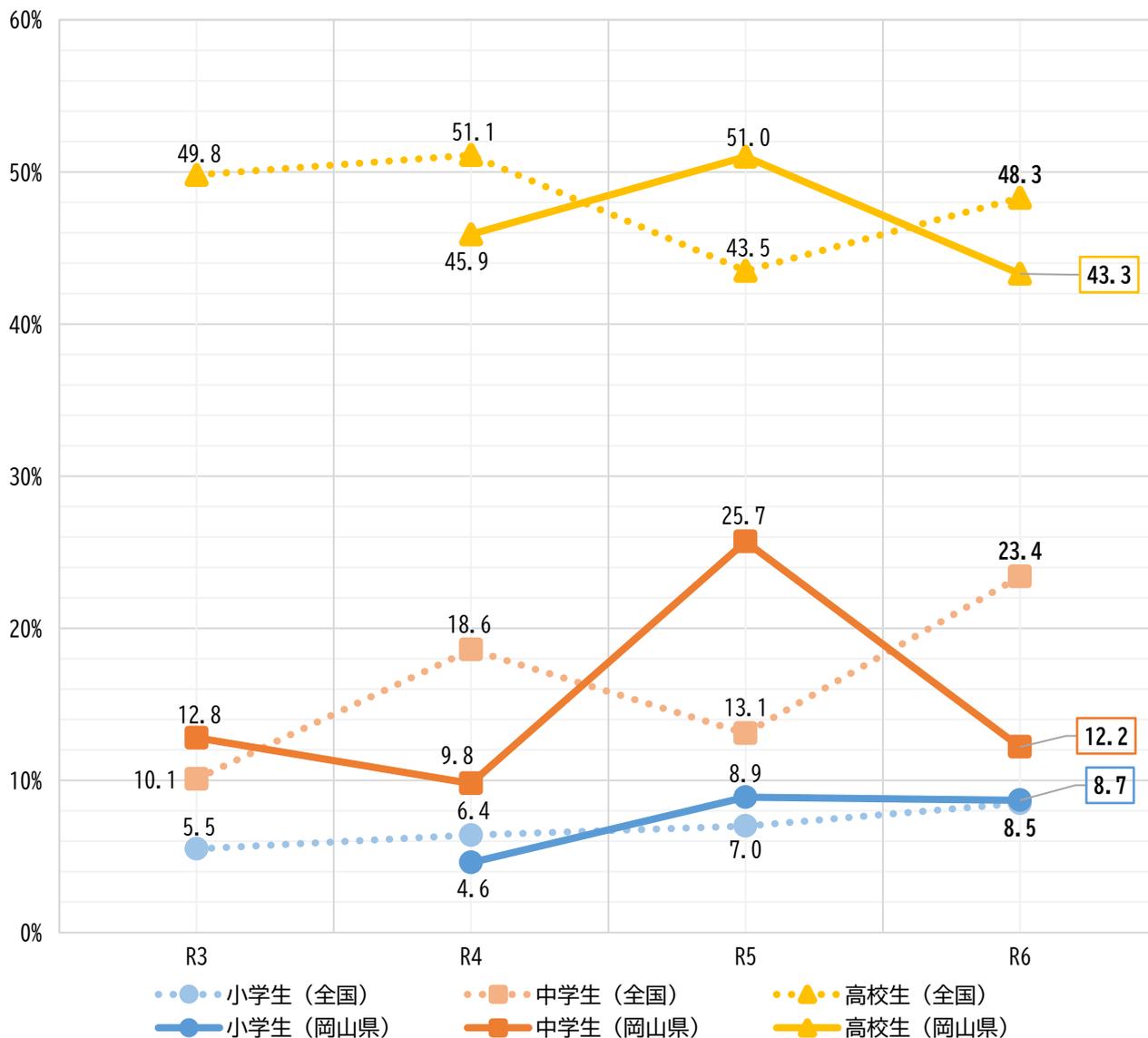
	H30	R1	R3	R4	R5	R6
小学生（4～6年生）	9.8冊	11.3冊	12.7冊	13.2冊	12.6冊	13.8冊
中学生	4.3冊	4.7冊	5.3冊	4.7冊	5.5冊	4.1冊
高校生	1.3冊	1.4冊	1.6冊	1.6冊	1.9冊	1.7冊

(2) 不読率

本調査において、9月1か月間に本を全く読まなかった児童生徒の割合を、不読率とする。

令和6年度の不読率は、小学生は8.7%（前年度比△0.2%）、中学生は12.2%（前年度比△13.5%）、高校生は43.3%（前年度比△7.7%）となった。

(3) 不読率の推移



【参考】 全国の不読率の推移

(公益社団法人全国学校図書館協議会「学校読書読査」より ※R2は調査中止)

◎「本」の定義…教科書、学習参考書、マンガ、雑誌やふろくを除く。

◎不読率の定義…「5月1か月間に読んだ本の冊数が0冊」の児童生徒の割合

	H30 (第64回)	R1 (第65回)	R3 (第66回)	R4 (第67回)	R5 (第68回)	R6 (第69回)
小学生(4～6年生)	8.1%	6.8%	5.5%	6.4%	7.0%	8.5%
中学生	15.3%	12.5%	10.1%	18.6%	13.1%	23.4%
高校生	55.8%	55.3%	49.8%	51.1%	43.5%	48.3%

令和5年度調査では、いずれの校種とも全国の不読率より高かったが、令和6年度調査では、小学生は全国の不読率よりやや高かったものの、中学生・高校生は全国の不読率より低かった。

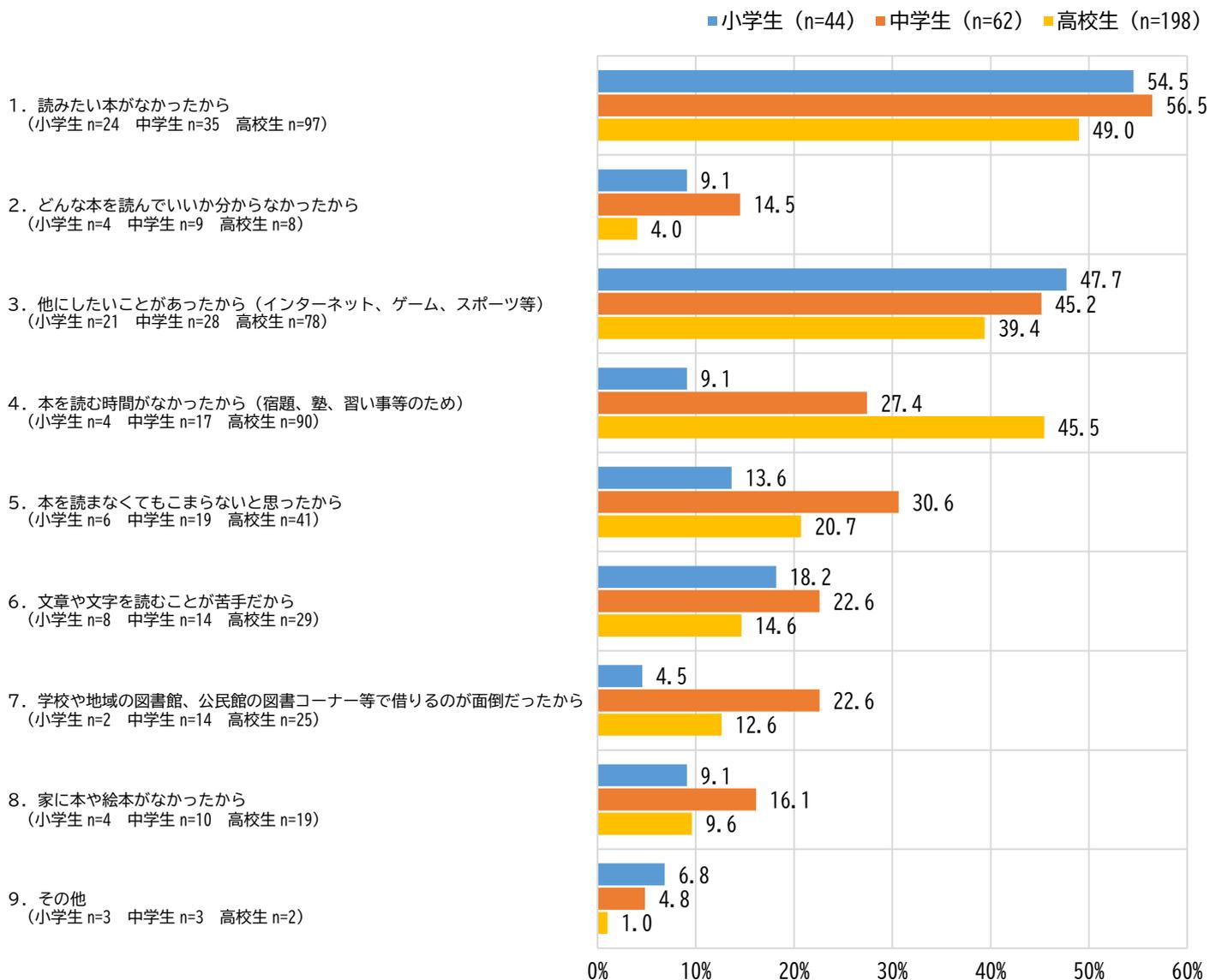
校種が上がるにつれて不読率が上昇する傾向は、全国的な傾向と同様である。一因として、校種が上がるにつれて、スマートフォン等の所持率や利用率が増えることや、読書意欲があっても読書時間を確保することが難しくなることなどが考えられる。

また、不読率が上昇と低下を繰り返している傾向も、全国的な傾向と同様である。令和6年度調査では、中学生・高校生の不読率が大きく低下した一方、小学生の不読率はわずかな低下にとどまっており、全国的にも上昇傾向にあるため、今後も調査・分析の継続が必要である。

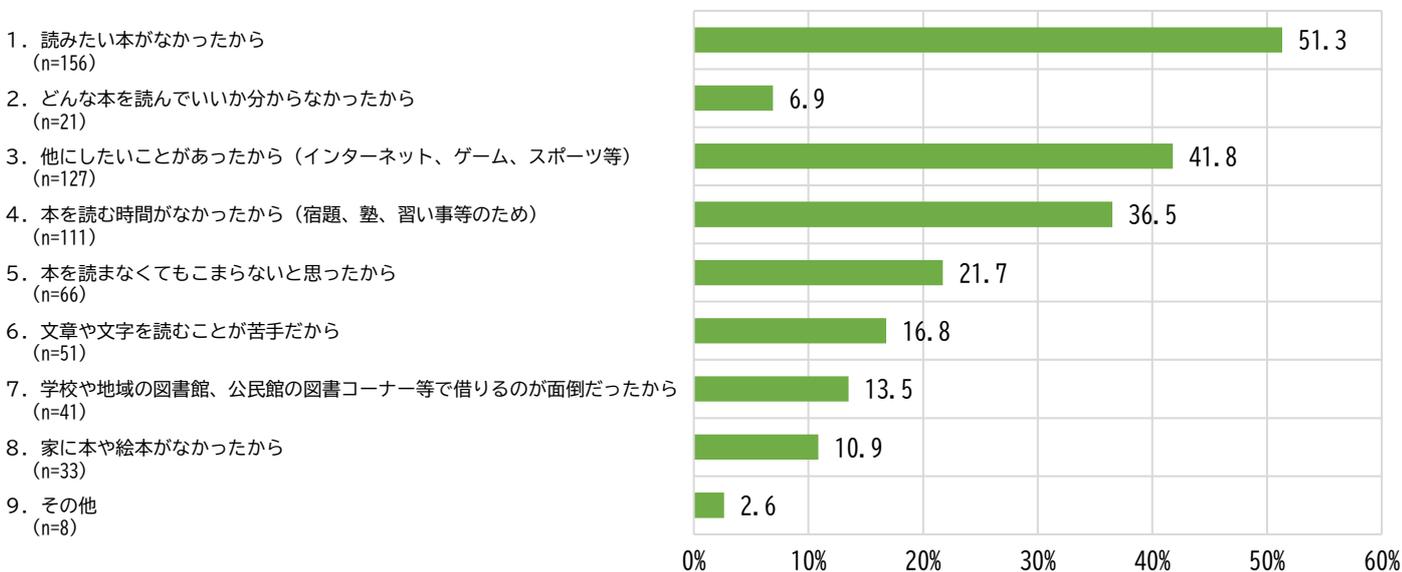
② 不読の理由

問1（1か月の読書冊数）において、「全く読まなかった」と回答した児童生徒に対して、本を読まなかった理由を質問した。

（1）本を読まなかった理由（%） 〈複数回答〉



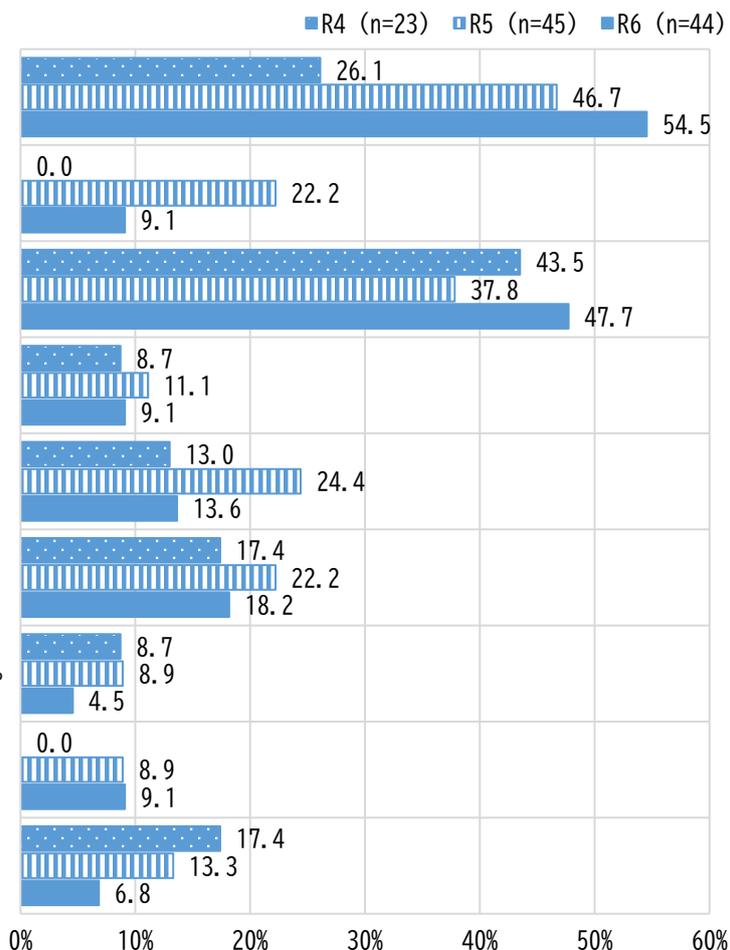
全体（n=304）



(2)「本を読まなかった理由」の推移（校種別・％） 〈複数回答〉

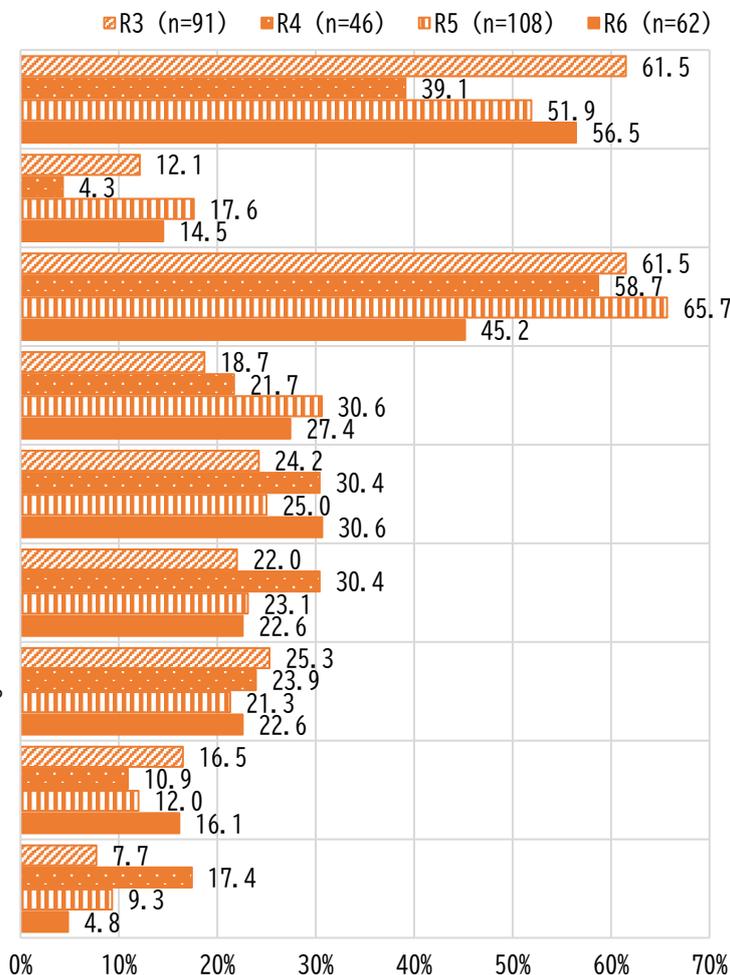
小学生

1. 読みたい本がなかったから
2. どんな本を読んでいいかわからなかったから
3. 他にしたいことがあったから（インターネット、ゲーム、スポーツ等）
4. 本を読む時間がなかったから（宿題、塾、習い事等のため）
5. 本を読まなくてもこまらなと思ったから
6. 文章や文字を読むことが苦手だから
7. 学校や地域の図書館、公民館の図書コーナー等で借りるのが面倒だったから
8. 家に本や絵本がなかったから
9. その他



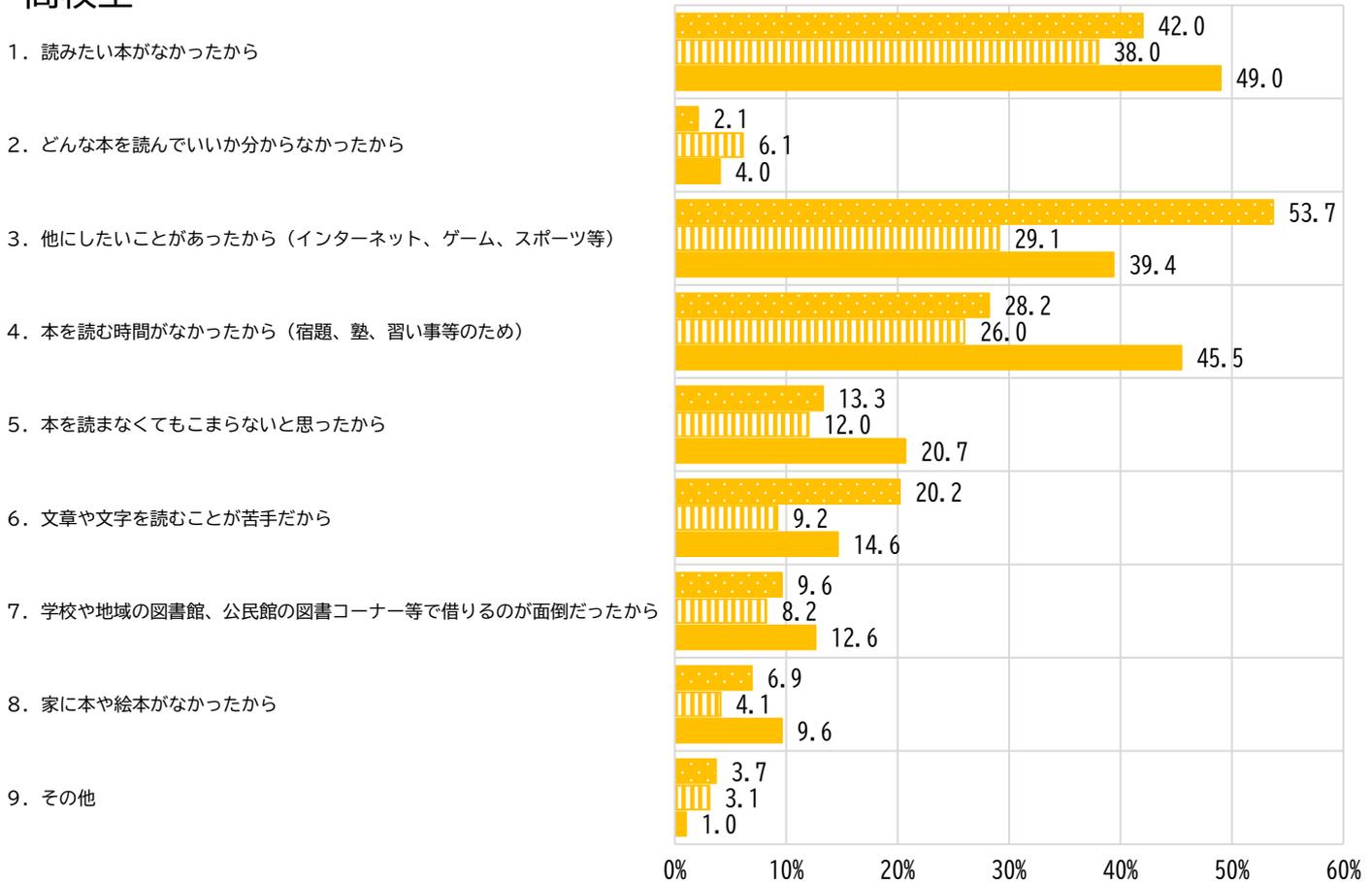
中学生

1. 読みたい本がなかったから
2. どんな本を読んでいいかわからなかったから
3. 他にしたいことがあったから（インターネット、ゲーム、スポーツ等）
4. 本を読む時間がなかったから（宿題、塾、習い事等のため）
5. 本を読まなくてもこまらなと思ったから
6. 文章や文字を読むことが苦手だから
7. 学校や地域の図書館、公民館の図書コーナー等で借りるのが面倒だったから
8. 家に本や絵本がなかったから
9. その他



高校生

■ R4 (n=188) ■ R5 (n=392) ■ R6 (n=198)



【参考】「本を読まなかった理由」の順位の推移

(岡山県教育庁生涯学習課「子どもの読書環境に関する実態調査」より)

	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
小学生 (4~6年生)	①他にしたいことがあったから	①読みたい本がなかったから	①読みたい本がなかったから
	②読みたい本がなかったから	②他にしたいことがあったから	②他にしたいことがあったから
中学生	①他にしたいことがあったから	①他にしたいことがあったから	①読みたい本がなかったから
	②読みたい本がなかったから	②読みたい本がなかったから	②他にしたいことがあったから
高校生	①他にしたいことがあったから	①読みたい本がなかったから	①読みたい本がなかったから
	②読みたい本がなかったから	②他にしたいことがあったから	②本を読む時間がなかったから

令和4年度調査では、いずれの校種とも「他にしたいことがあったから」の回答割合が最も高く、令和5年度調査では、中学生については「他にしたいことがあったから」の回答割合が引き続き最も高かったが、小学生・高校生については「読みたい本がなかったから」の回答割合が最も高かった。

令和6年度調査では、中学生についても「読みたい本がなかったから」の回答割合が最も高くなり、いずれの校種とも「読みたい本がなかったから」の回答割合が最も高くなった。

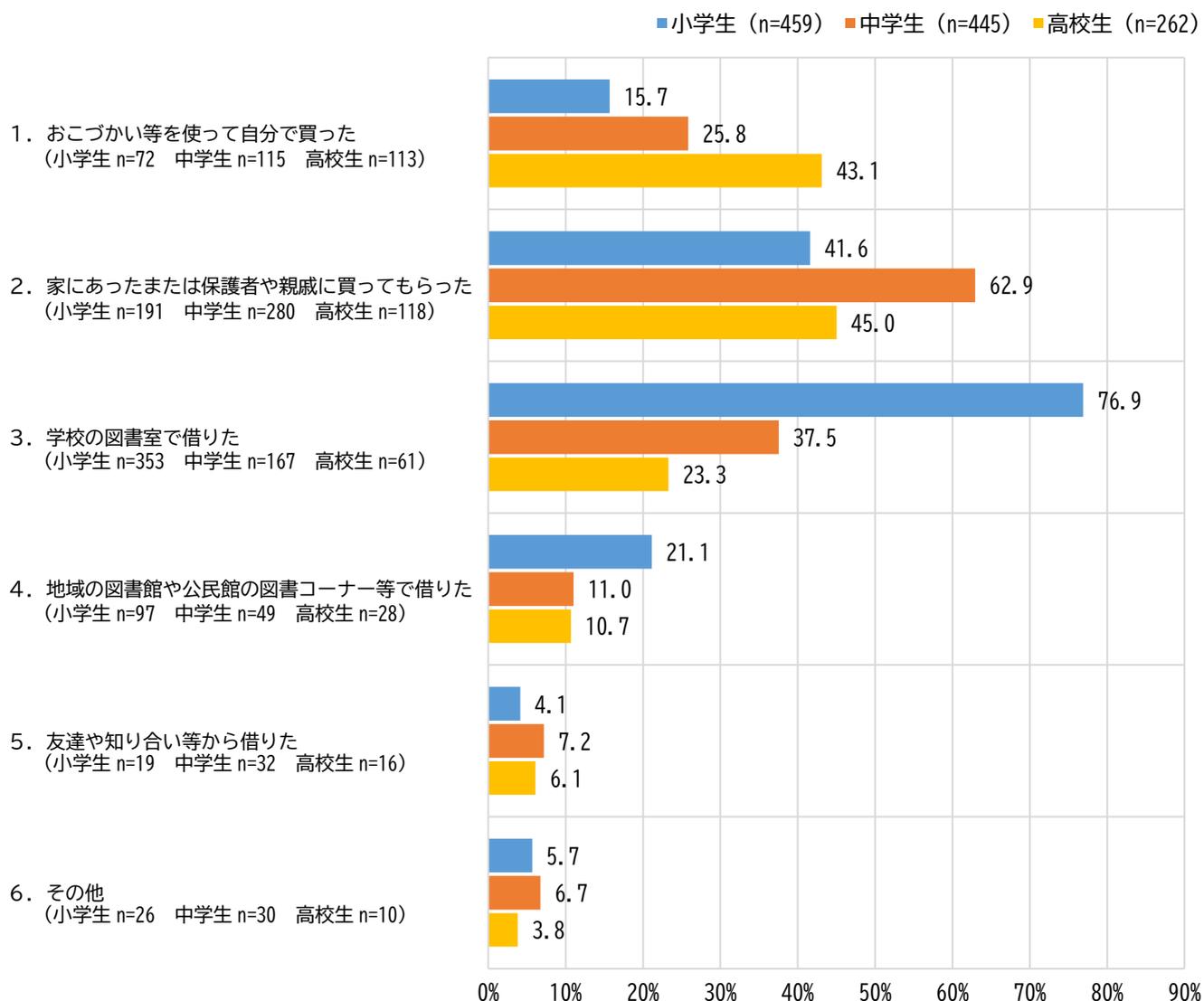
「他にしたいことがあったから」及び「本を読む時間がなかったから」と回答した児童生徒には、興味や優先順位が読書を上回るものがあったと考えられるため、読書意欲の喚起や読書機会の確保が求められている。一方、「読みたい本がなかったから」と回答した児童生徒には、読書意欲や読書機会がないわけではなかったと考えられるため、多様な本に触れて興味をもてる本に出会う機会の提供が求められている。

また、公益社団法人全国学校図書館協議会「学校読書調査」(H30・R6)における「どんなときに本を読みたいと思うのか」という質問に対しては、「ひまな時間ができたとき」と回答した児童生徒が多く、時間的・精神的なゆとりも読書への誘因として重要と考えられる。

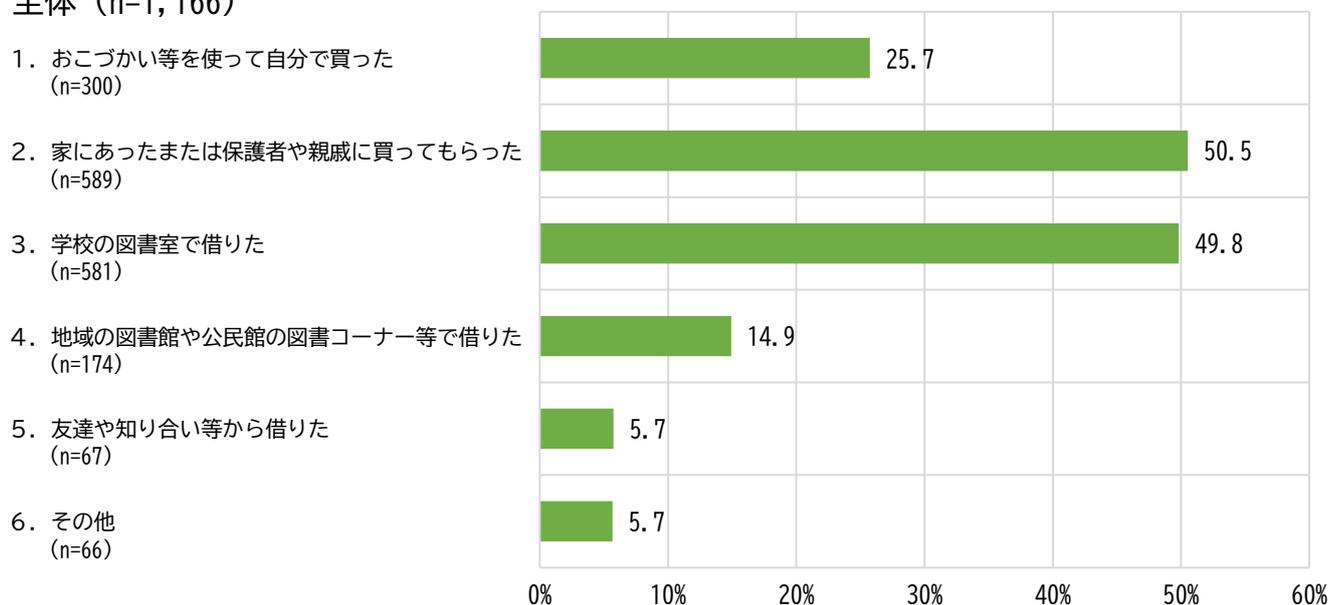
③ 本の入手方法

問1（1か月の読書冊数）において、「全く読まなかった」と回答した児童生徒以外に対して、読んだ本を手に入れた方法を質問した。

（1）本を手に入れた方法（％） 〈複数回答〉

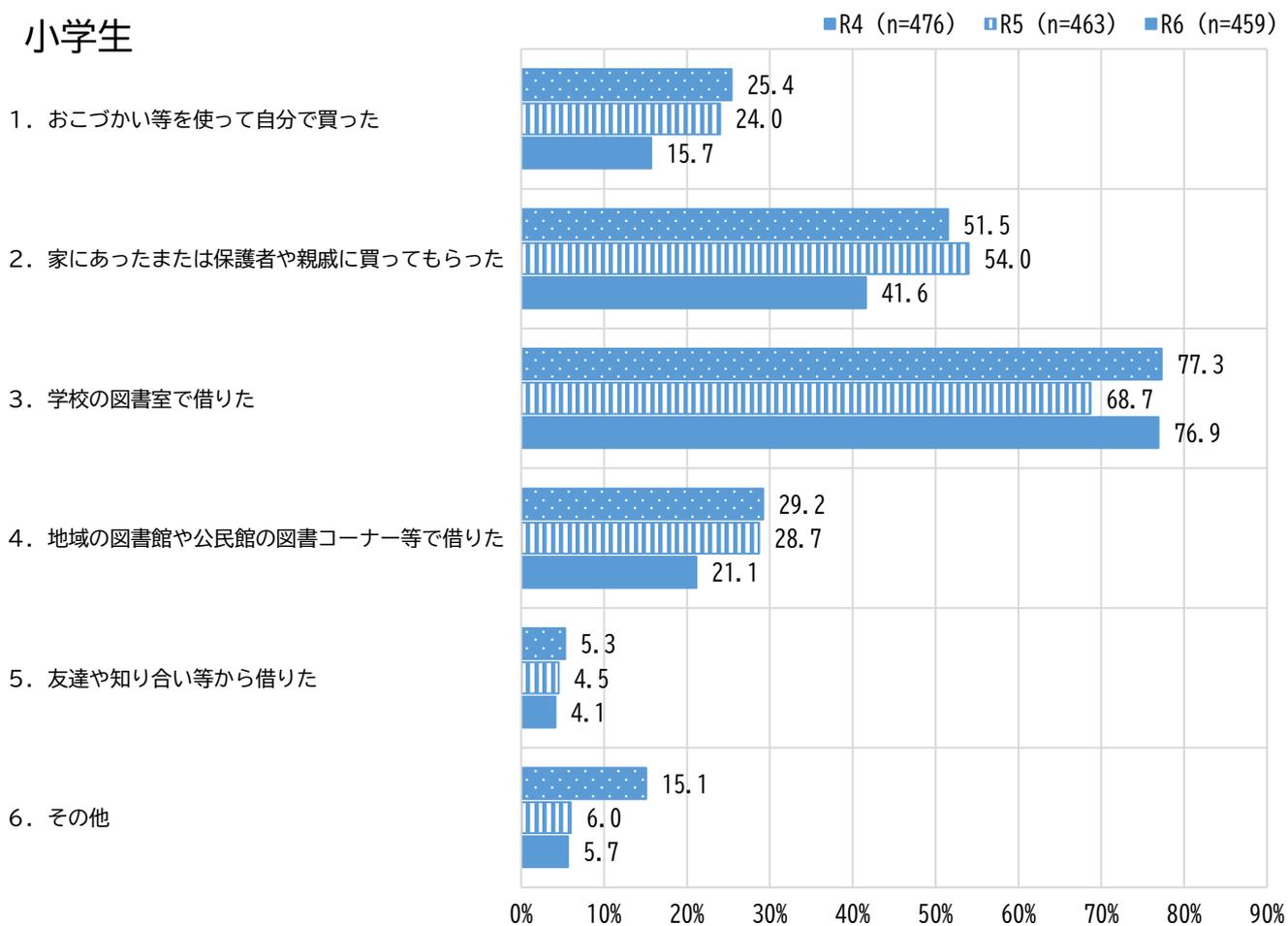


全体（n=1,166）

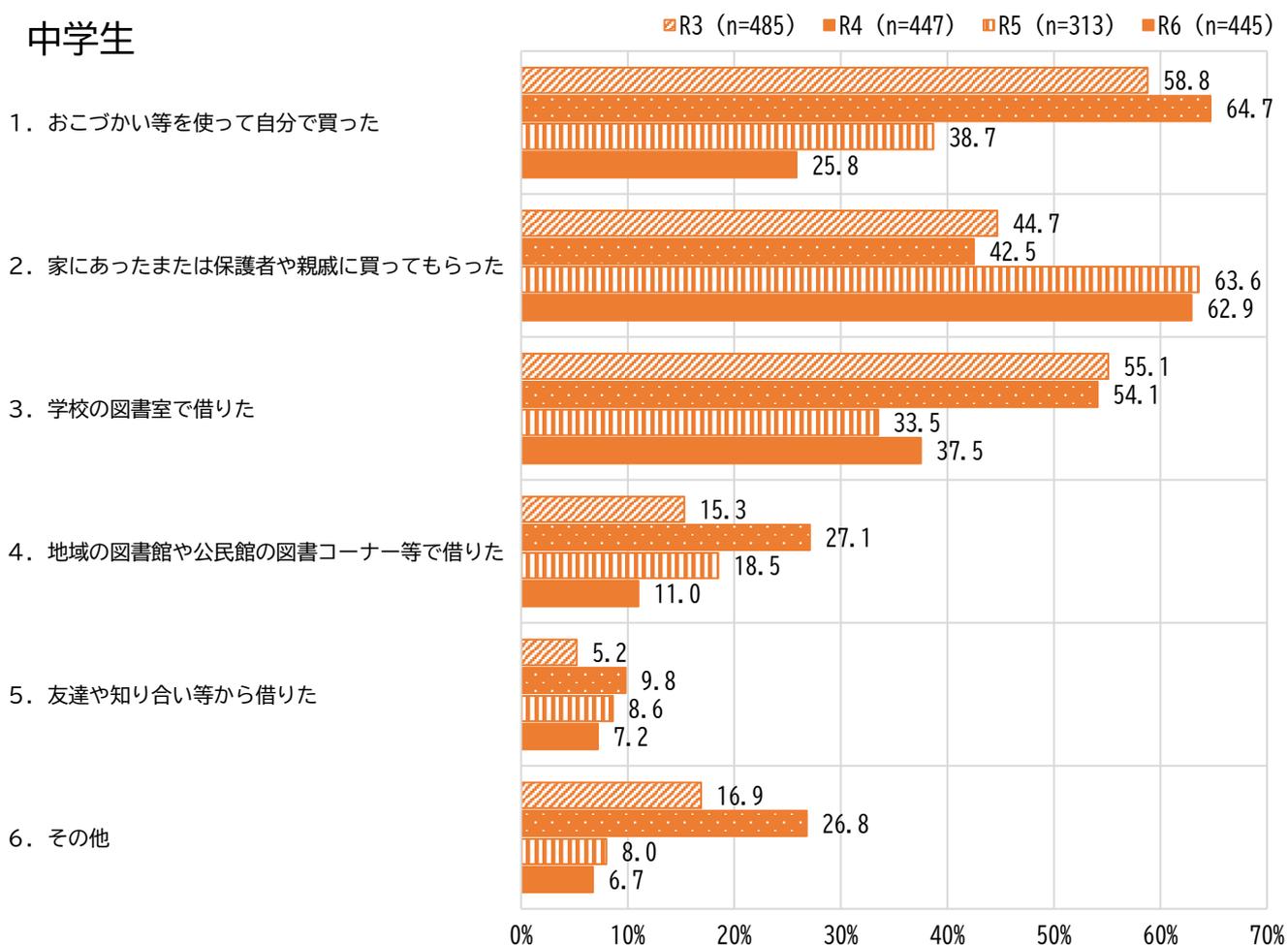


(2)「本を手に入れた方法」の推移（校種別・％） 〈複数回答〉

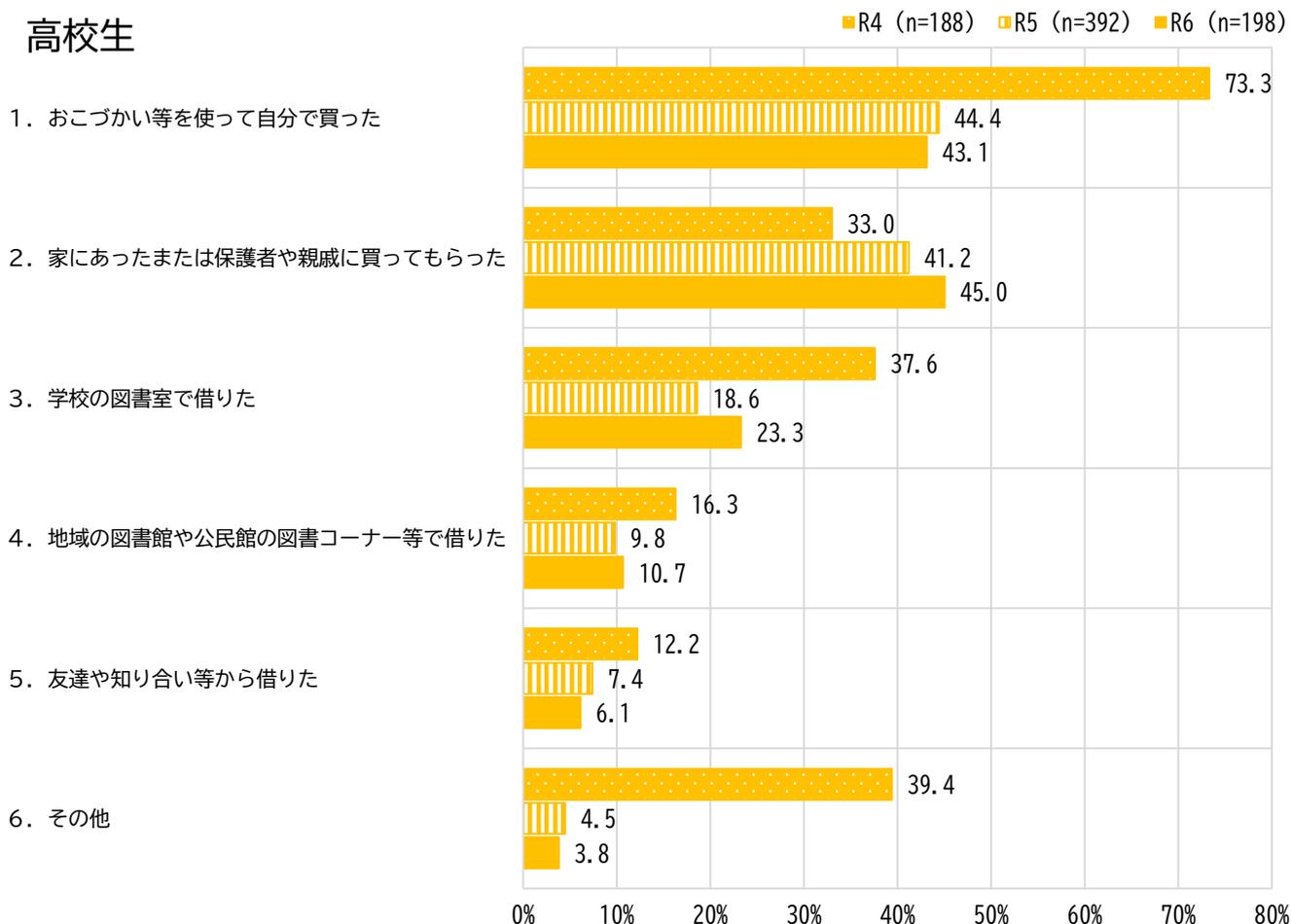
小学生



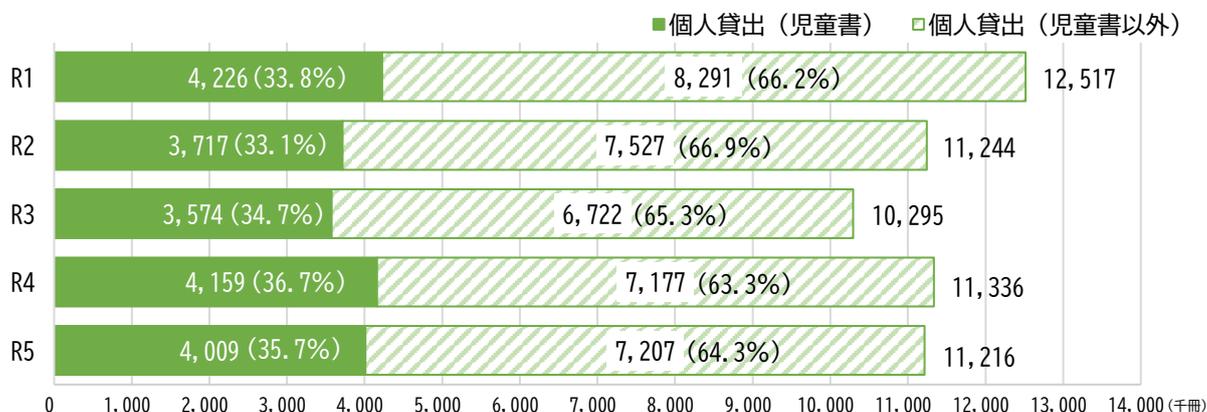
中学生



高校生



【参考】 県・市町村立図書館全体の合計個人貸出冊数に占める児童書の割合
(岡山県立図書館「岡山県内公共図書館調査」より)



「おこづかい等を使って自分で買った」の回答割合は、小学生 15.7% < 中学生 25.8% < 高校生 43.1% であり、校種が上がるにつれて高くなった。

一方、「学校の図書室で借りた」の回答割合は、小学生 76.9% > 中学生 37.5% > 高校生 23.3%、「地域の図書館や公民館の図書コーナー等で借りた」の回答割合は、小学生 21.1% > 中学生 11.0% > 高校生 10.7% であり、校種が上がるにつれて低くなった。

背景には、校種が上がるにつれて、読みたい本の多様化・専門化が進み、図書館の蔵書では満足できなくなったり、行動範囲や経済力が拡大し、自身で読みたい本を所有できるようになったりする状況があると考えられる。図書館の児童用図書の貸出冊数は、全国的には減少傾向にあり、子どもの要望を取り入れた資料・環境整備に継続して取り組む必要がある。

また、「家にあったまたは保護者や親戚に買ってもらった」の回答割合は、全体的に高く、学年進行との相関関係はあまりみられなかったことから、家庭環境における蔵書や読書活動が、校種にかかわらず読書への契機になると考えられる。

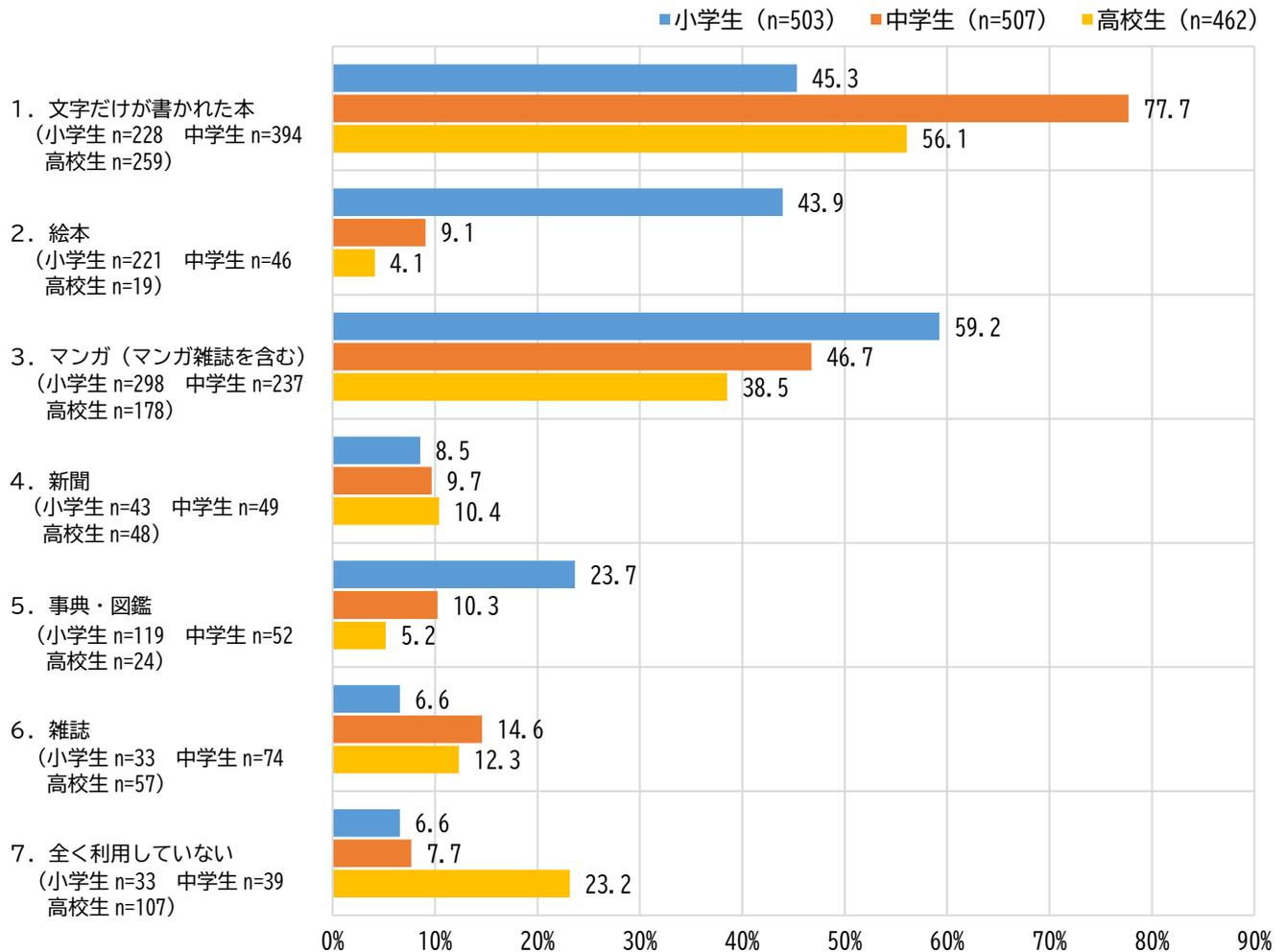
2 読書の傾向

① 1か月に利用した本

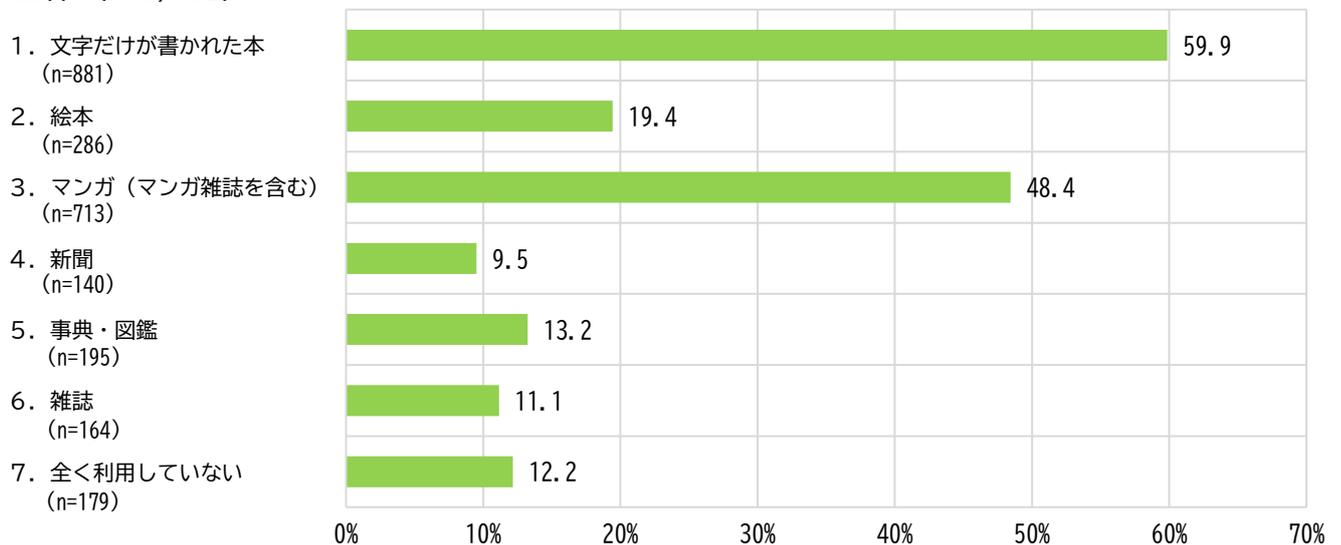
本調査の対象者全員に対して、9月1か月間に、読んだり見たりした本（調べ学習や宿題、趣味等のために使った本を含む。）を、紙の書籍と電子書籍それぞれについて質問した。

なお、本問においては、「本」や「読書」の定義を幅広く捉え、マンガ、新聞、雑誌等の利用も含めて調査した。

(1) 1か月に利用した紙の書籍（％） 〈複数回答〉

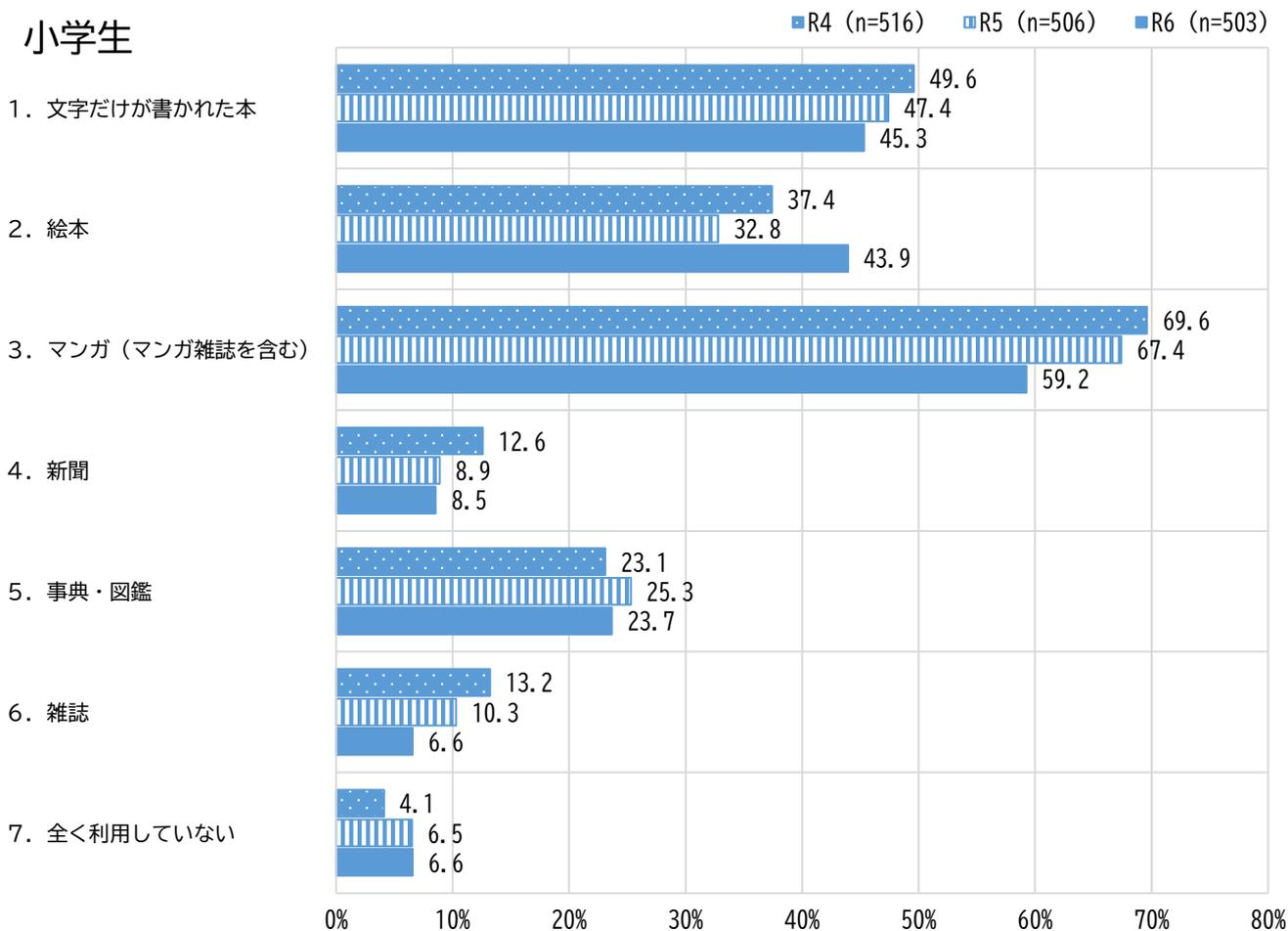


全体 (n=1,472)

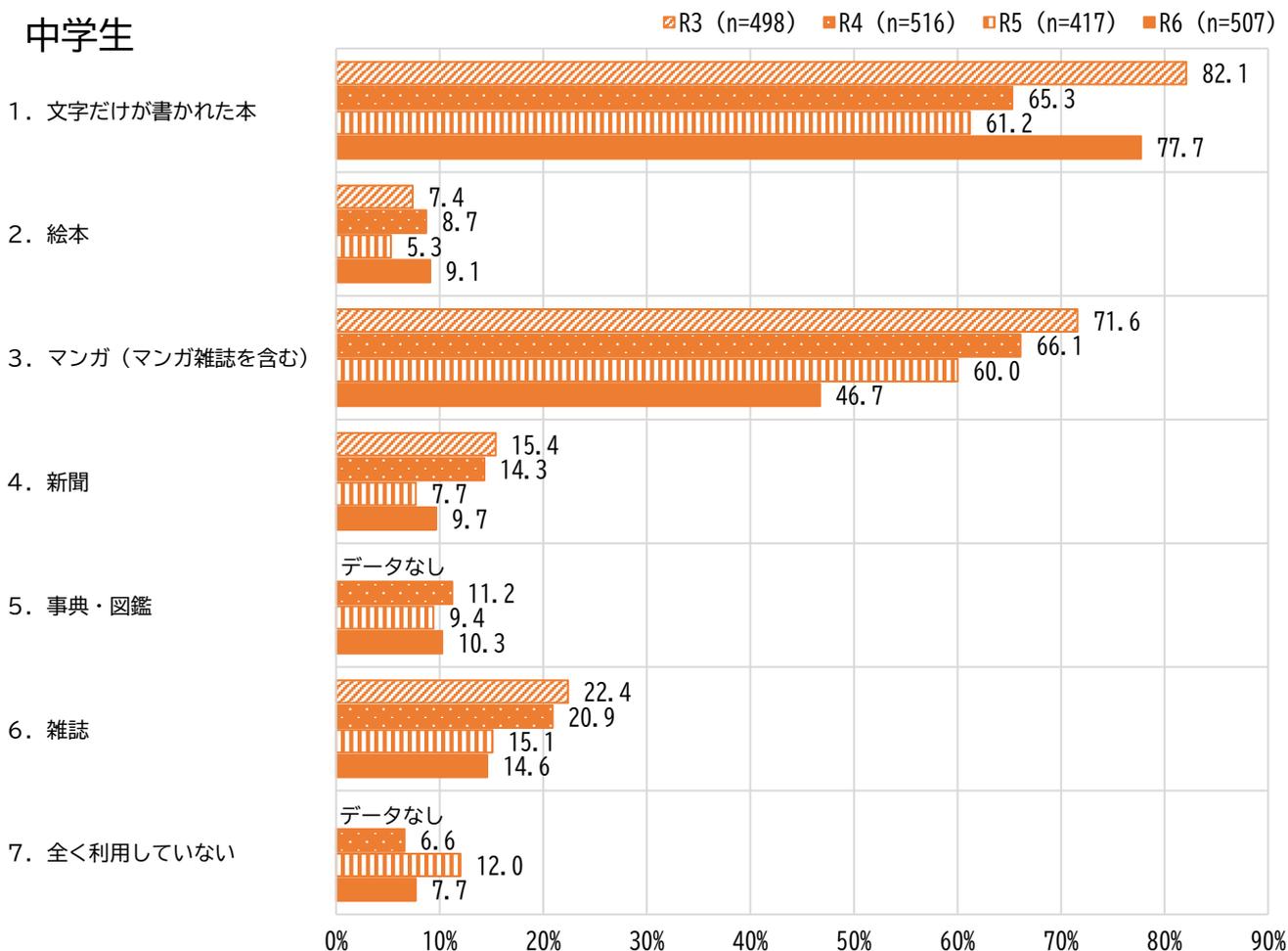


(2) 「1か月に利用した紙の書籍」の推移（校種別・％） 〈複数回答〉

小学生

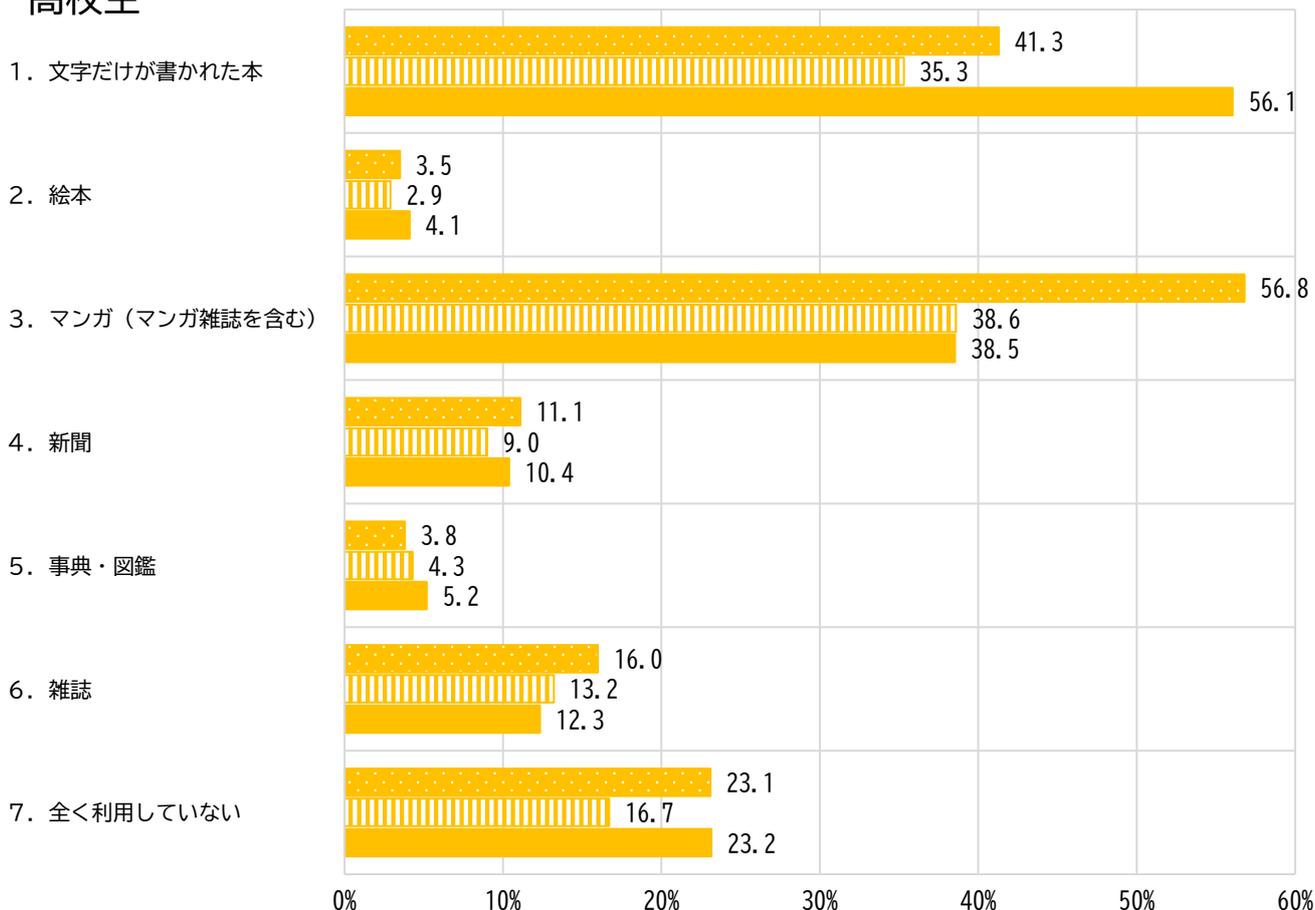


中学生



高校生

■ R4 (n=424) ■ R5 (n=765) ■ R6 (n=462)



【参考】乳幼児期からの発達段階に応じた読書活動

(文部科学省「第五次『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』」を参考に作成)

	高校生の時期 (概ね15～18歳)	読書の目的や資料の種類に応じて、適切に読めるようになる。 知的興味に応じて、幅広く多様な読書ができるようになる。
	中学生の時期 (概ね12～15歳)	多読傾向は減少し、共感や感動できる本を選ぶようになる。 将来を意識し、読書を将来の役に立てようとするようになる。
小学生の時期 (概ね6～12歳)	高学年	本の選択ができ始め、好みの本の傾向が現れ、読書の幅が広がり始める。 一方で、発達が停滞し読書の幅が広がらなくなる子どもが出てくる場合がある。
	中学年	本を読み通せる・読み通せない子どもの違いが現れ始める。 読み通せる子どもは、自分の考え方と比較しながら読書ができるようになり、読む速度や読書量が増加する。
	低学年	読み聞かせから一人読みへ移行する 語彙量が増え、文字を通じて場面や情景をイメージするようになる。
就学前の時期 (概ね～6歳)	大人との言葉のやり取りや読み聞かせを通じて、言葉を獲得し、絵本や物語への興味が育まれる。 多様な体験を通じて想像力や言葉が豊かになり、物語の世界を楽しむようになる。	

紙の書籍については、小学生の93.4%、中学生の92.3%、高校生の76.8%が利用したと回答し、全体的に、「文字だけが書かれた本」と「マンガ」の回答割合が高かった。

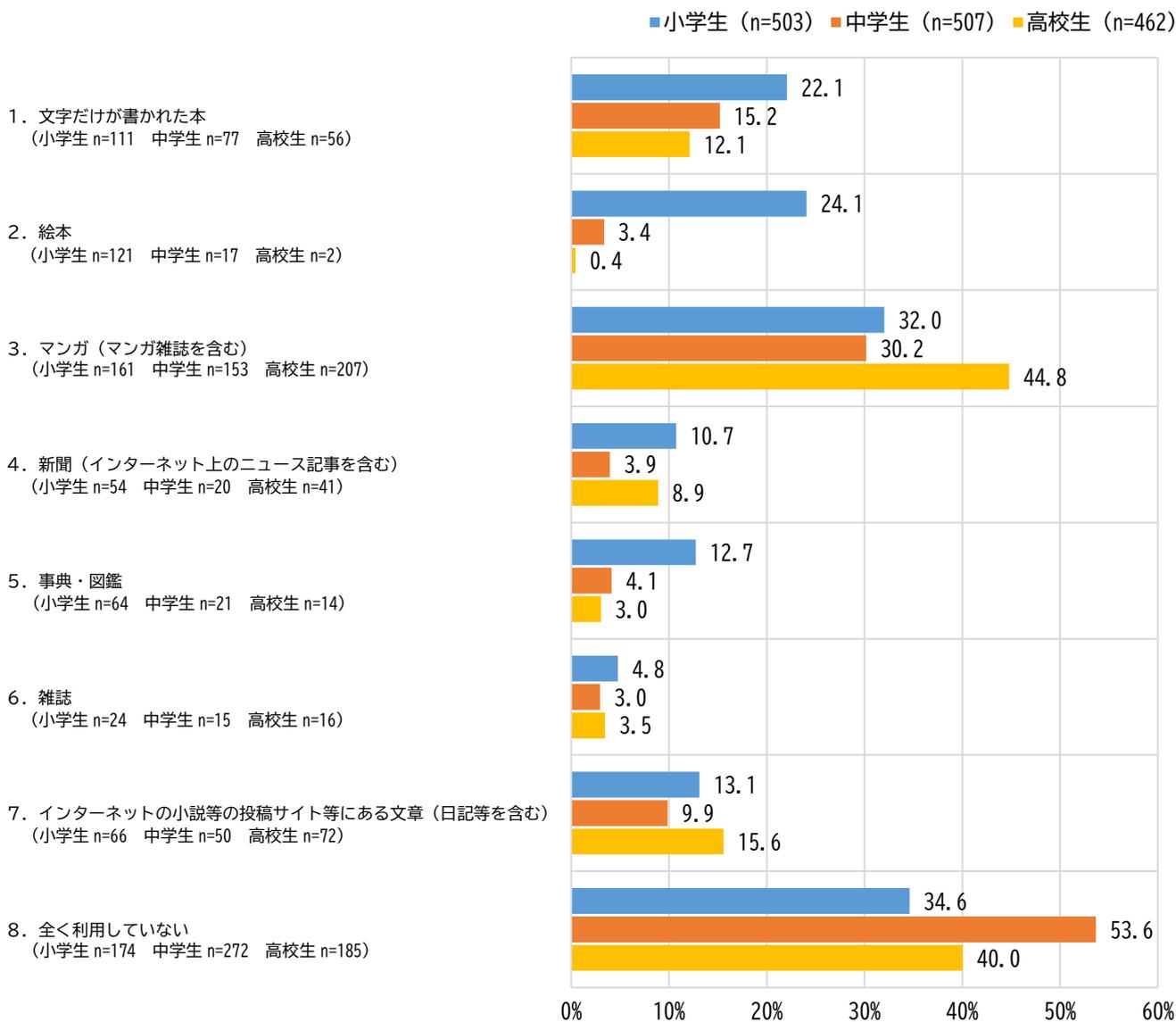
小学生は、「マンガ」>「文字だけが書かれた本」>「絵本」>「事典・図鑑」の順に回答割合が高く、挿絵や写真等の視覚的情報で読解力を補いながら読書をする場合も多いと考えられる。

中学生は、「文字だけが書かれた本」>「マンガ」>「雑誌」>「事典・図鑑」の順に回答割合が高く、「絵本」や「事典・図鑑」の回答割合は小学生の半数以下となった一方、「雑誌」の回答割合は小学生の倍以上となった。背景には、絵や写真中心の読書から活字中心の読書に移行するとともに、流行や時事への関心が高まる時期であることが考えられる。

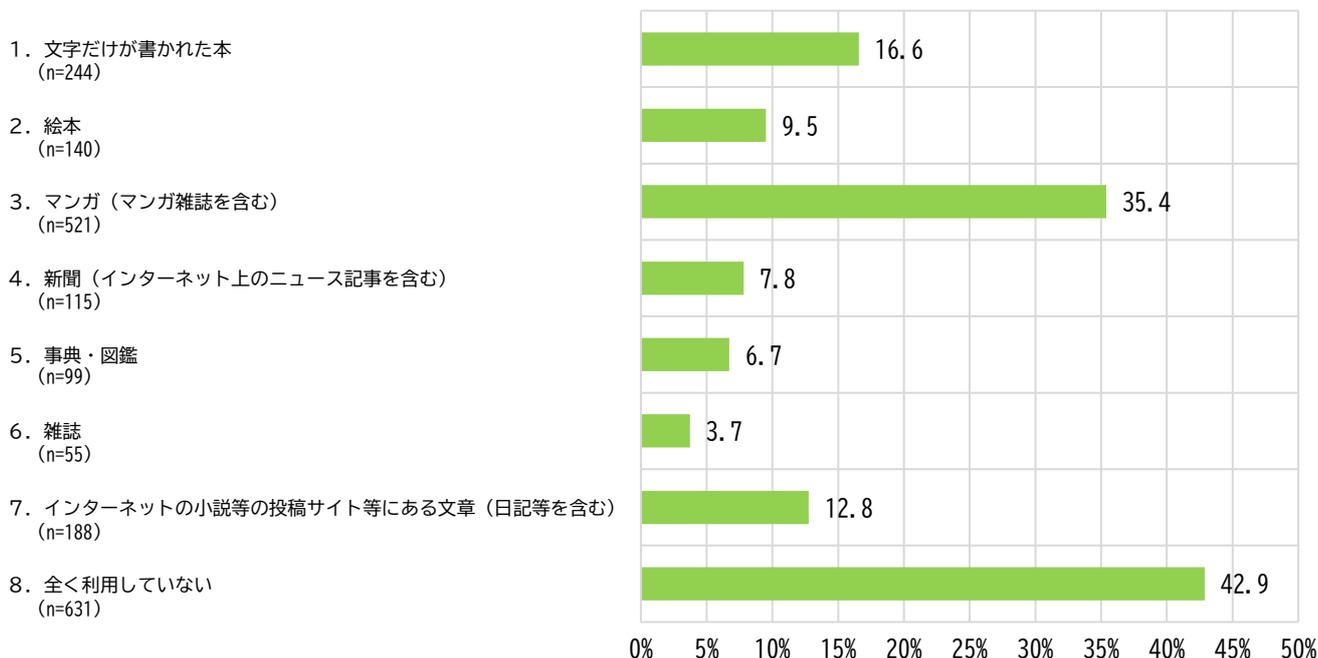
高校生は、「文字だけが書かれた本」>「マンガ」>「全く利用していない」>「雑誌」の順に回答割合が多く、小学生・中学生に比べて紙の書籍を全く利用しない生徒が増加した。小学生・中学生に比べて高校生の不読率が高かったことから推察できるように、校種が上がるにつれて、読む生徒と読まない生徒の二極化が顕著になっていると考えられる。

※「マンガ」・「新聞」・「雑誌」は、本調査の「不読率」における「本」には含めていない。

(3) 1か月に利用した電子書籍 (%) <複数回答>

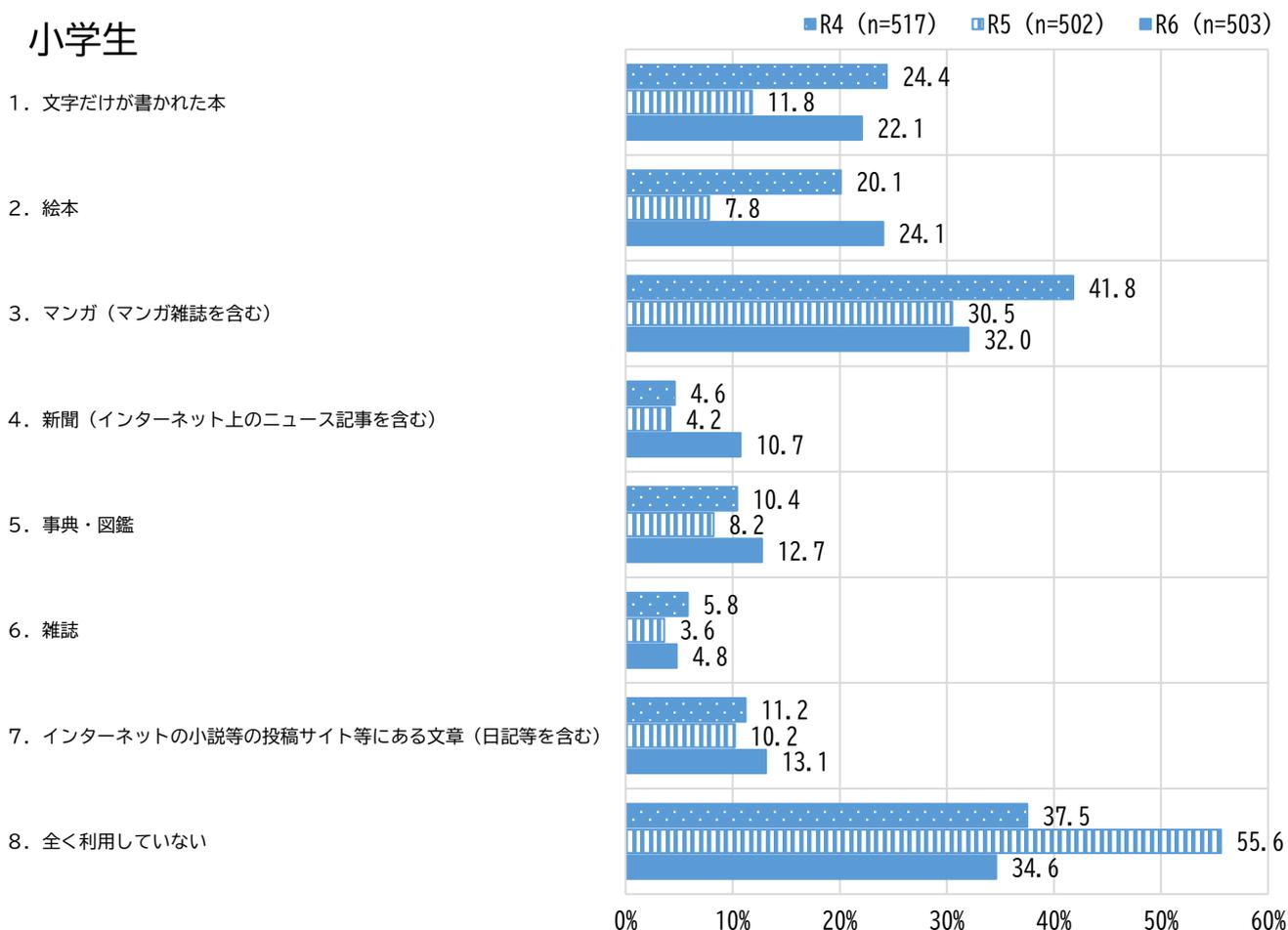


全体 (n=1,472)

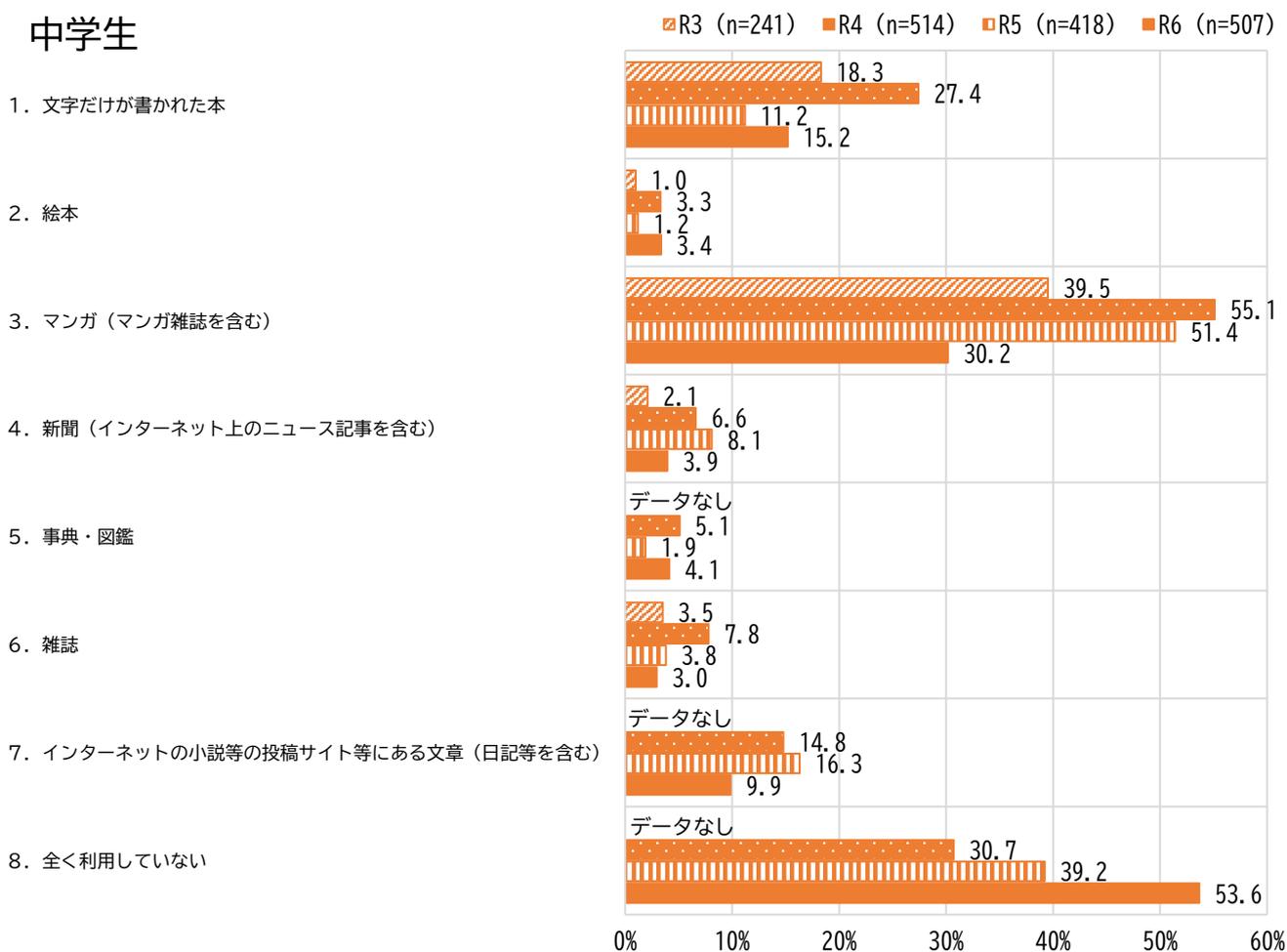


(4) 「1か月に利用した電子書籍」の推移（校種別・％） 〈複数回答〉

小学生



中学生



高校生

■ R4 (n=425) ■ R5 (n=765) ■ R6 (n=462)

1. 文字だけが書かれた本



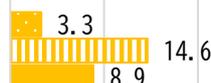
2. 絵本



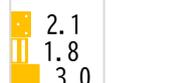
3. マンガ (マンガ雑誌を含む)



4. 新聞 (インターネット上のニュース記事を含む)



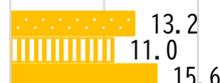
5. 事典・図鑑



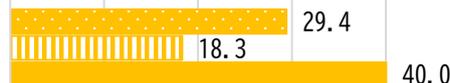
6. 雑誌



7. インターネットの小説等の投稿サイト等にある文章 (日記等を含む)



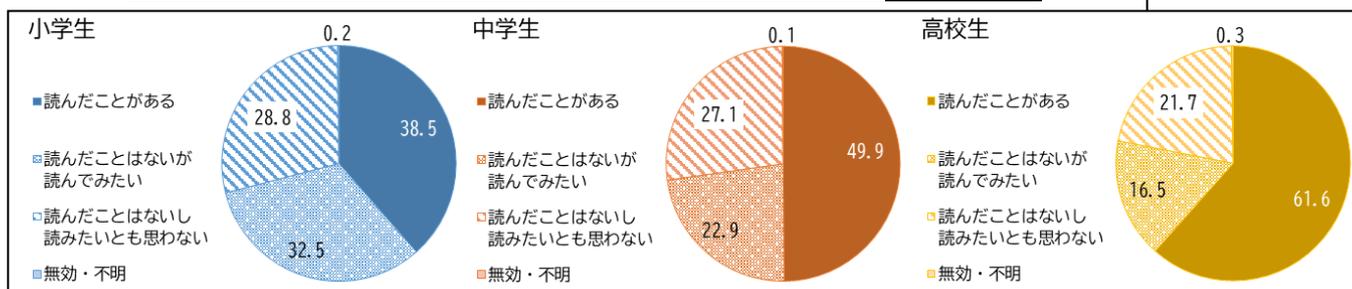
8. 全く利用していない



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%

【参考】全国の電子書籍読書経験の割合の推移
(公益社団法人全国学校図書館協議会「学校読書読査」より)

	R3	R4	R5	R6
小学生 (4～6年生)	35.9%	36.6%	30.3%	38.5%
中学生	47.1%	52.8%	48.7%	49.9%
高校生	58.0%	61.0%	55.3%	61.6%



電子書籍については、小学生の 65.4%、中学生の 46.4%、高校生の 60.0%が利用したと回答し、「全く利用していない」を除くと、全体的に、「マンガ」の回答割合が高かった。過年度調査と同様の傾向で、電子書籍市場の約9割がマンガであることが関係していると考えられる。

小学生は、「全く利用していない」>「マンガ」>「絵本」>「文字だけが書かれた本」の順に回答割合が高く、デジタル絵本の機能等も楽しまれていると考えられる。

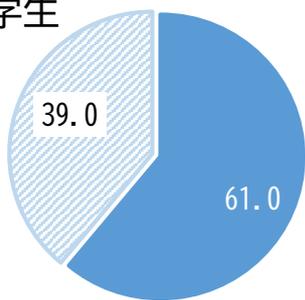
中学生は、「全く利用していない」>「マンガ」>「文字だけが書かれた本」>「インターネットの小説等の投稿サイト等にある文章」の順に回答割合が高かった。高校生は、「マンガ」>「全く利用していない」>「インターネットの小説等の投稿サイト等にある文章」>「文字だけが書かれた本」の順に回答割合が高かった。中学生・高校生においては、「インターネットの小説等の投稿サイト等にある文章」がよく読まれており、ライトノベル等が好まれていると考えられる。

※「マンガ」・「新聞」・「雑誌」・「インターネットの小説等の投稿サイト等にある文章」は、本調査の「不読率」における「本」には含めていない。

(5) 1か月に利用した本に占める紙の書籍・電子書籍の割合(%) (複数回答)

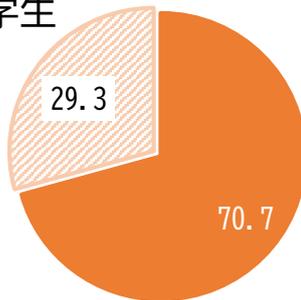
※グラフに付加している「n」は、「全く利用していない」以外の選択肢への回答者数の和とする。調査結果の数値(%)は、回答者数全体(紙の書籍と電子書籍における「全く利用していない」以外の選択肢への回答者数の和)に対する割合とする。

小学生



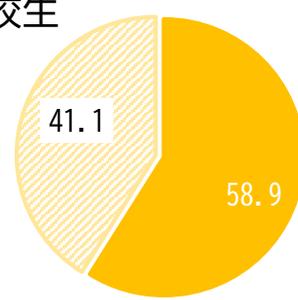
■ 紙の書籍 (n=942)
■ 電子書籍 (n=601)

中学生



■ 紙の書籍 (n=852)
■ 電子書籍 (n=353)

高校生



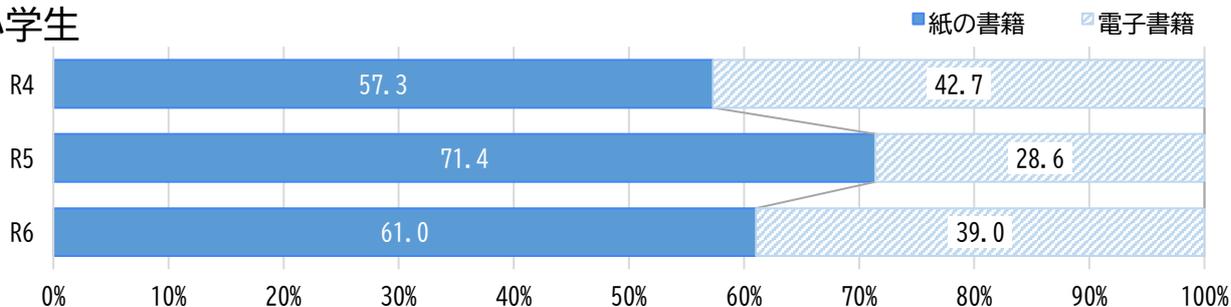
■ 紙の書籍 (n=585)
■ 電子書籍 (n=408)

(6) 「1か月に利用した本に占める紙の書籍・電子書籍の割合」の推移(校種別・%)

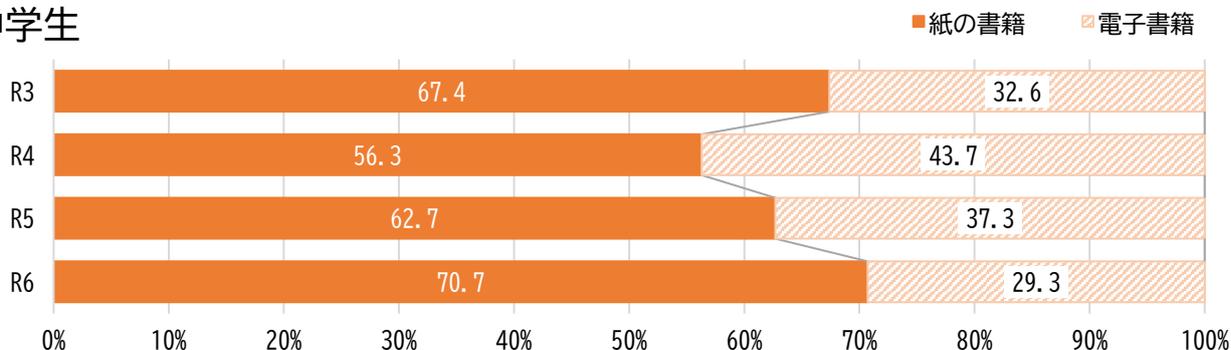
(複数回答)

※調査結果の数値(%)は、回答者数全体(紙の書籍と電子書籍における「全く利用していない」以外の選択肢への回答者数の和)に対する割合とする。

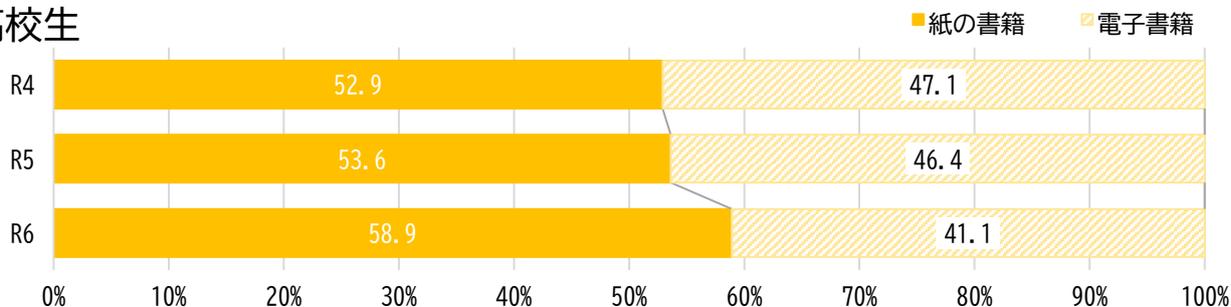
小学生



中学生



高校生



いずれの校種とも、電子書籍より紙の書籍の割合が高いものの、小学生 39.0%、中学生 29.3%、高校生 41.1%と、平均約4割が電子書籍であった。紙の書籍に加えて、電子書籍も含めた多様な読書機会の提供が求められている。

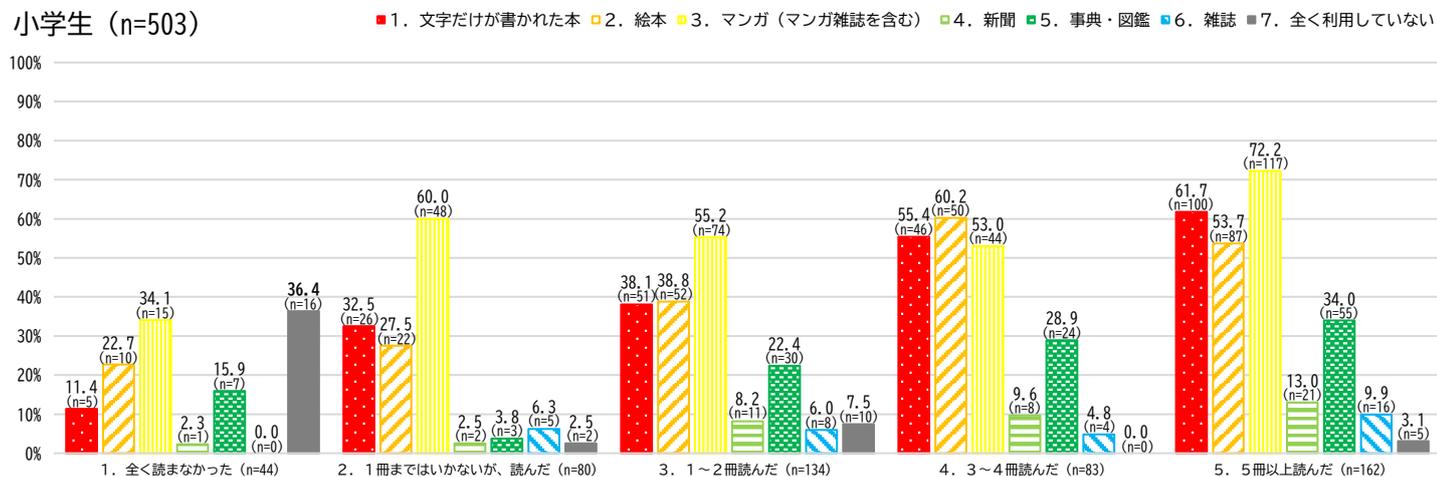
② 1か月の読書冊数と利用した本の関係

9月1か月間における、狭義の本（電子書籍を含み、マンガ、新聞、雑誌、教科書、学習参考書、絵・写真のみの画集や写真集は除く。）の読書と、広義の紙の書籍・電子書籍（マンガ、新聞、雑誌等も含む。）の利用との相関を分析するため、クロス集計を行った。

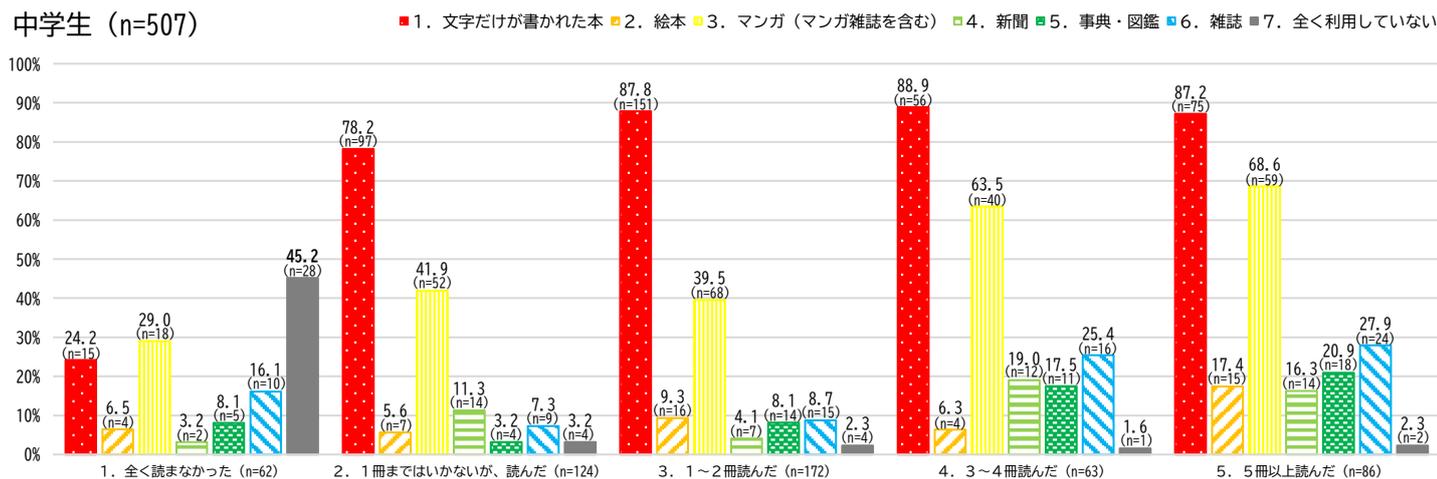
(1) 1か月の読書冊数と利用した紙の書籍 (%)

※調査結果の数値 (%) は、問1（1か月の読書冊数）の選択肢への各回答者数に対する、問3（1か月の読書冊数）への回答者数の割合とする。

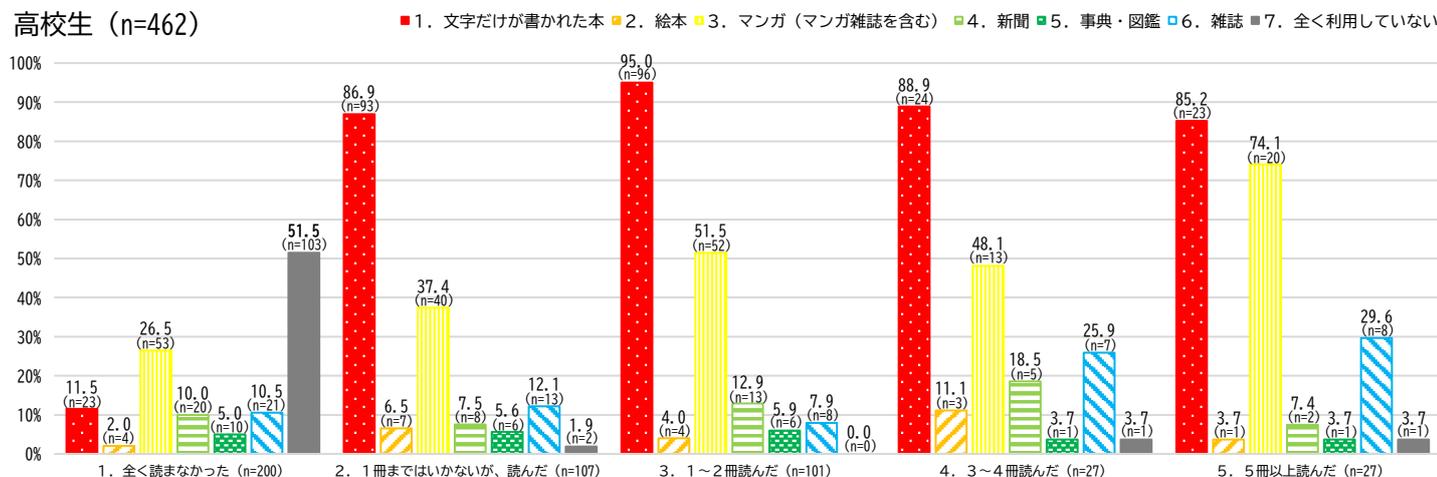
小学生 (n=503)



中学生 (n=507)



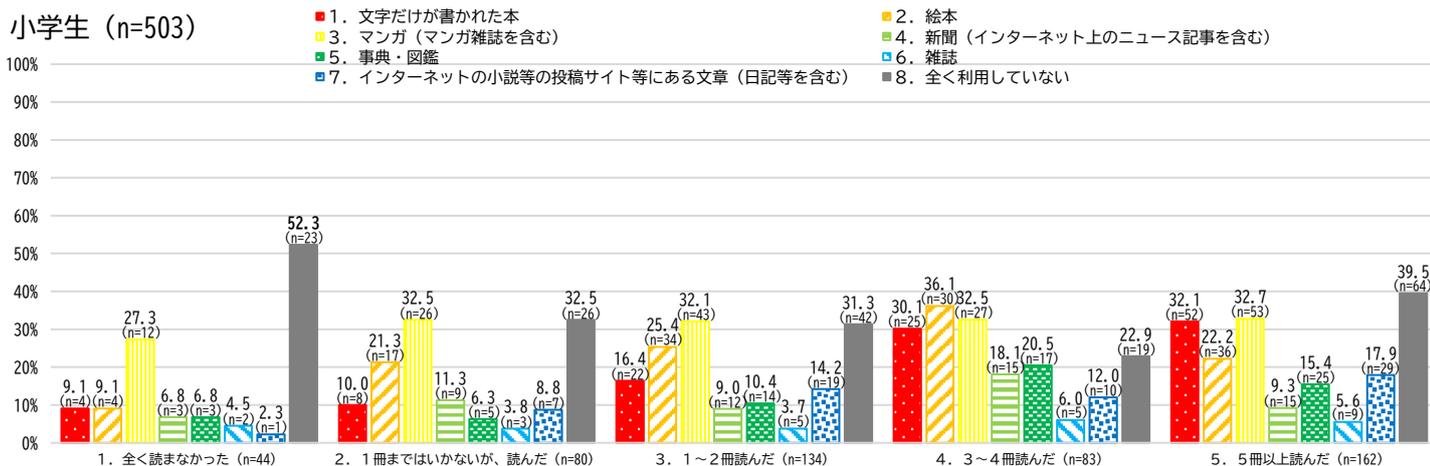
高校生 (n=462)



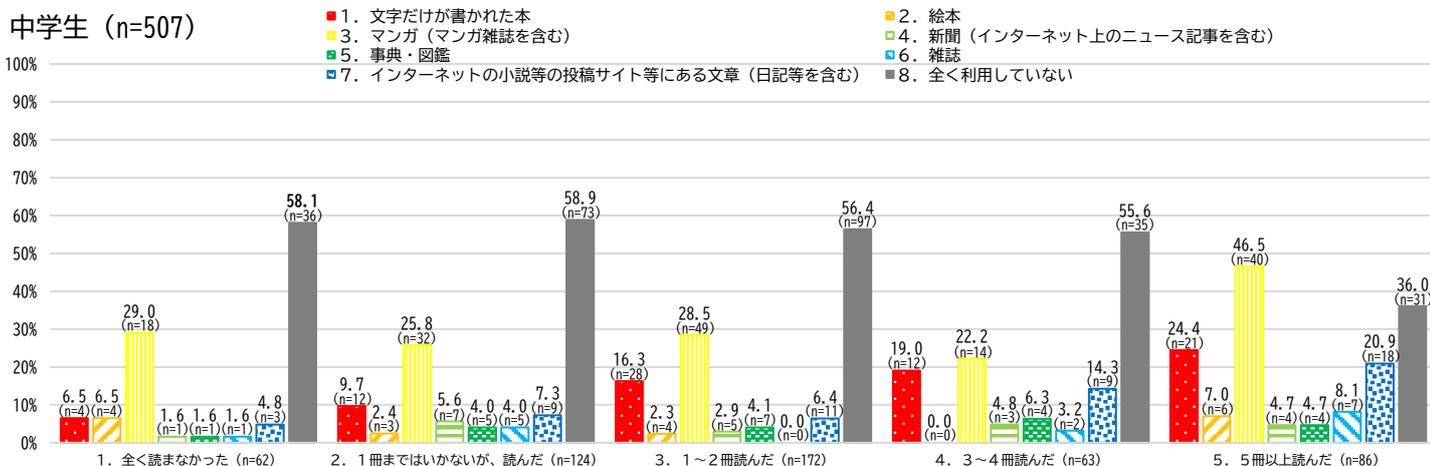
(2) 1か月の読書冊数と利用した電子書籍 (%)

※調査結果の数値 (%) は、問1 (1か月の読書冊数) の選択肢への各回答者数に対する、問3 (1か月の読書冊数) への回答者数の割合とする。

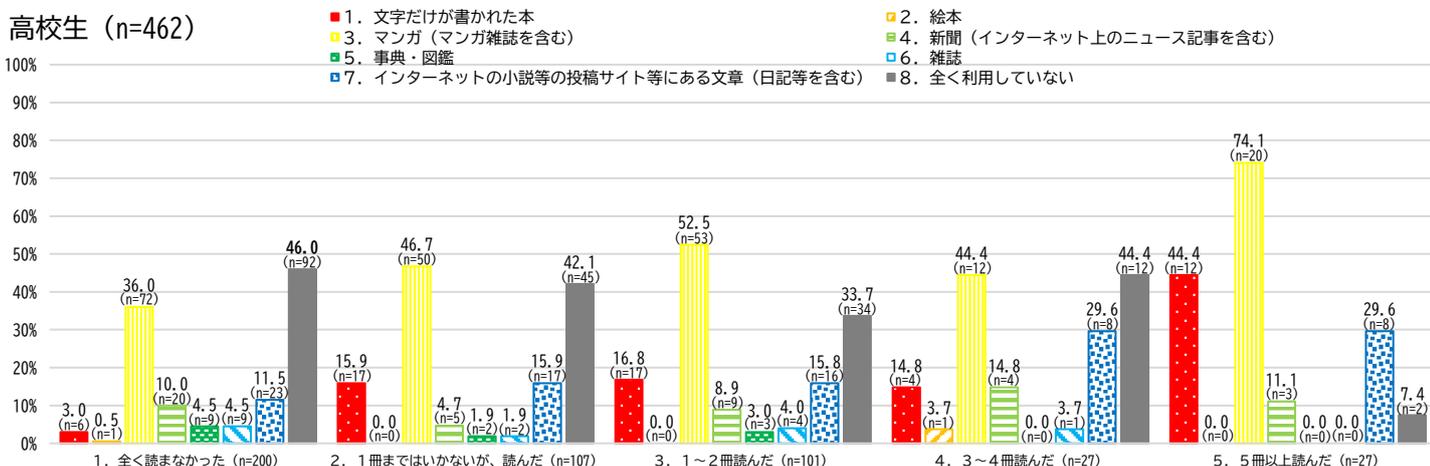
小学生 (n=503)



中学生 (n=507)



高校生 (n=462)



【参考】回答者数全体に対する、「9月1か月間に、狭義の本を全く読んでおらず、広義の紙の書籍及び広義の電子書籍も全く利用しなかった児童生徒」の割合

小学生 (4~6年生)	中学生	高校生
2.4% (12人/200人)	4.1% (21人/507人)	14.5% (67人/462人)

9月1か月間に、狭義の本を全く読まなかった児童生徒 (以下、「狭義の不読者」とする。) について、「本」や「読書」を広く定義すると、何らかの本を読んだり見たりしている児童生徒が顕在化した。校種や紙・電子を問わず、狭義の不読者は「マンガ」の回答割合が最も高かった。

狭義の不読者のうち、広義の本も全く利用しなかった児童生徒については、紙の書籍においては校種が上がるにつれて割合が高くなり、不読率と正の相関がみられるものの、電子書籍においては高校生に上がると割合が低くなり、高校生の狭義の不読者に対する電子書籍を利用したアプローチが期待できると考えられる。

3 学校図書館の利用

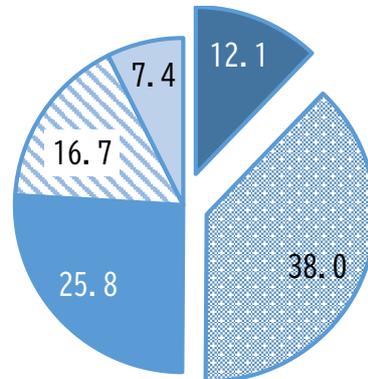
① 学校図書館の利用頻度

本調査の対象者全員に対して、普段（朝読書や授業の時間を含む）、学校図書館をどのくらい利用しているかを質問した。

(1) 学校図書館の利用頻度（%） 〈単一回答〉

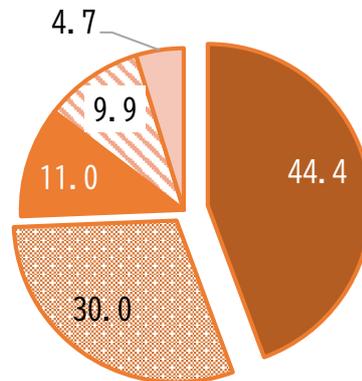
小学生（n=503）

- 1. 全く利用しない（n=61）
- 2. 月に1～3回利用する（n=191）
- 3. 週に1回利用する（n=130）
- 4. 週に2～4回利用する（n=84）
- 5. 週に5回以上利用する（n=37）



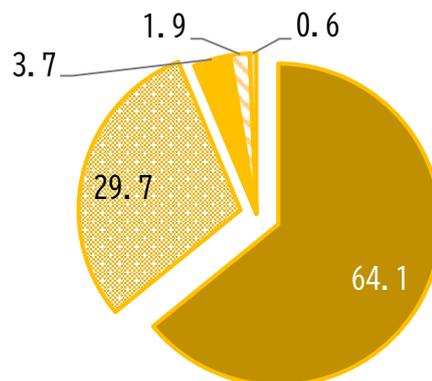
中学生（n=507）

- 1. 全く利用しない（n=225）
- 2. 月に1～3回利用する（n=152）
- 3. 週に1回利用する（n=56）
- 4. 週に2～4回利用する（n=50）
- 5. 週に5回以上利用する（n=24）



高校生（n=462）

- 1. 全く利用しない（n=296）
- 2. 月に1～3回利用する（n=137）
- 3. 週に1回利用する（n=17）
- 4. 週に2～4回利用する（n=9）
- 5. 週に5回以上利用する（n=3）



問2（本の入手方法）において、「学校の図書室で借りた」の回答割合は、全体的に「家にあったまたは保護者や親戚に買ってもらった」の回答割合に次いで高く、特に小学生の76.9%は学校図書館で本を入手していた。いずれの校種でも、「地域の図書館や公民館の図書コーナー等で借りた」の回答割合より「学校の図書室で借りた」の回答割合が高い一方で、校種が上がるにつれて、いずれの回答割合も低くなる傾向にあった。

本問でも同様に、学校図書館を「全く利用しない」の回答割合は、小学生12.1%<中学生44.4%<高校生64.1%であり、校種が上がるにつれて高くなった。しかし、「月に1～3回利用する」の回答割合は、小学生38.0%>中学生30.0%>高校生29.7%と、校種が上がるにつれて低くなるものの、いずれの校種とも3割以上の児童生徒が、少なくとも月1回は学校図書館に来館しており、児童生徒と読書を結びつけるハブとしての役割が期待される。

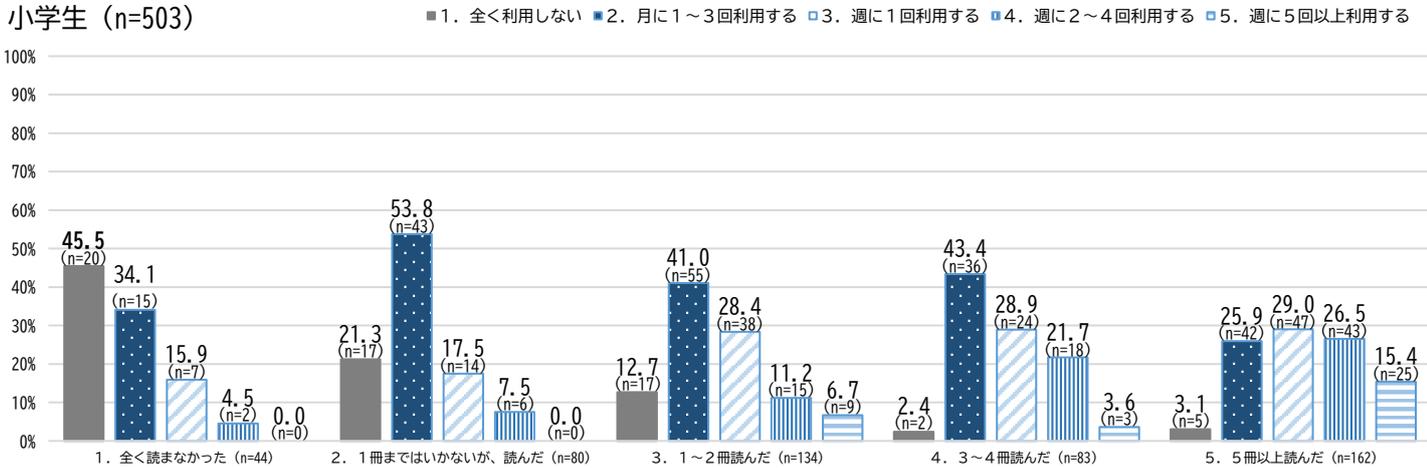
② 1か月の読書冊数と学校図書館の利用頻度の関係

9月1か月間における、狭義の本（電子書籍を含み、マンガ、新聞、雑誌、教科書、学習参考書、絵・写真のみの画集や写真集は除く。）の読書と、学校図書館の利用頻度との相関を分析するため、クロス集計を行った。

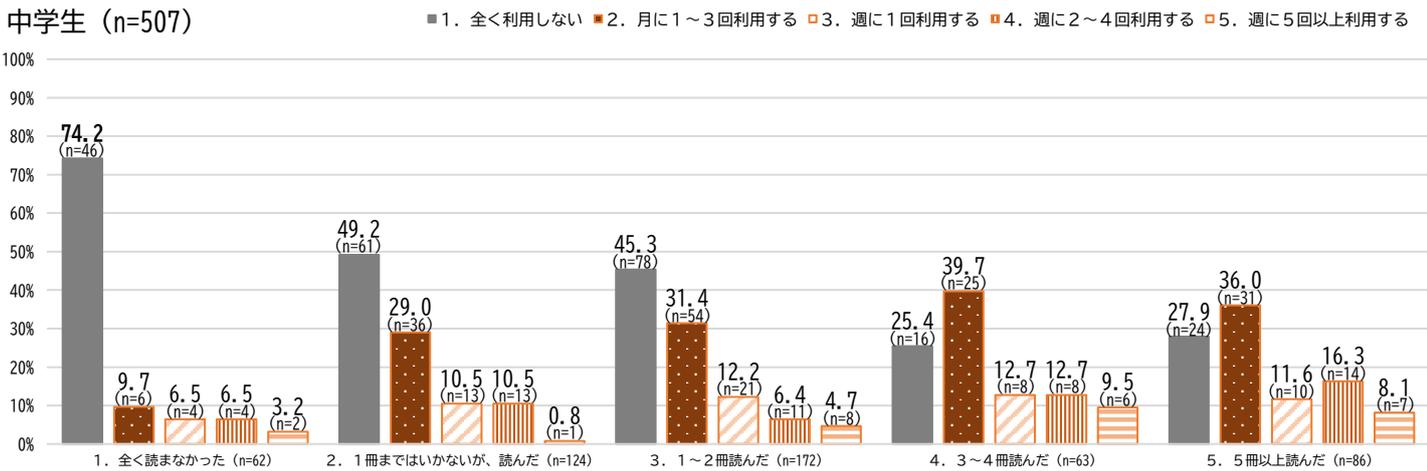
(1) 1か月の読書冊数と学校図書館の利用頻度 (%)

※調査結果の数値 (%) は、問1（1か月の読書冊数）の選択肢への各回答者数に対する、問4（学校図書館の利用頻度）への回答者数の割合とする。

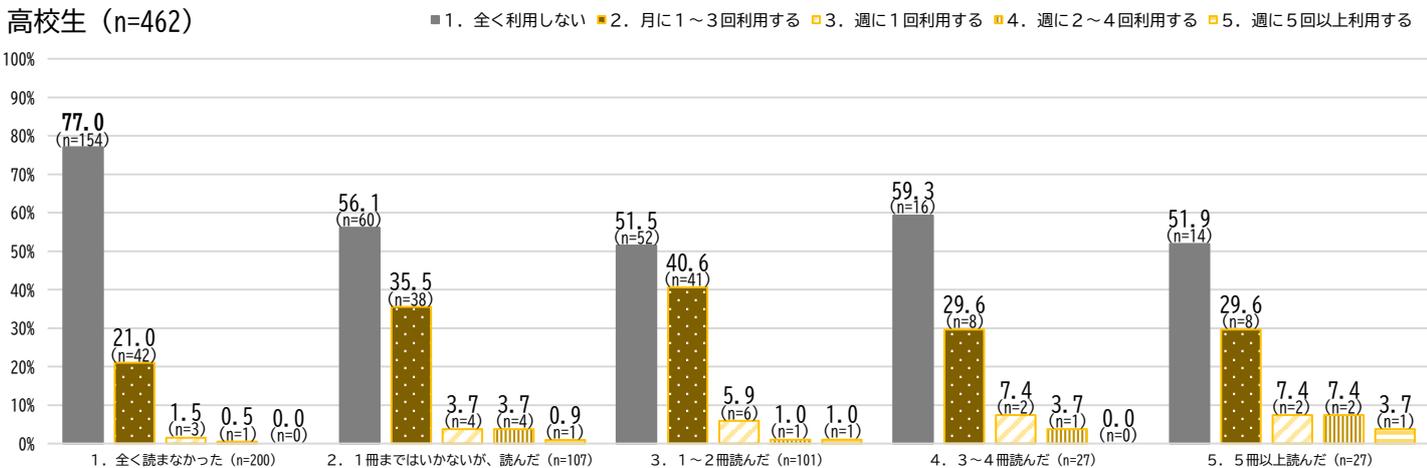
小学生 (n=503)



中学生 (n=507)



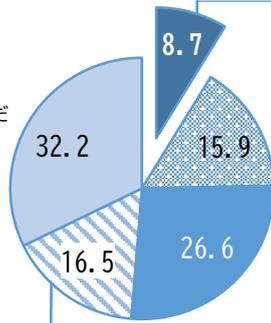
高校生 (n=462)



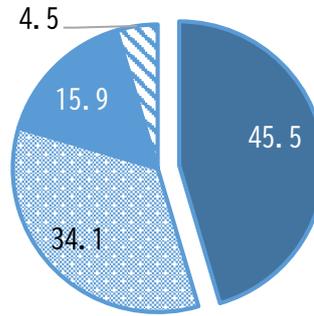
【参考】 9月1か月間に狭義の本を全く読まなかった児童生徒とそれ以外の児童生徒の
学校図書館の利用頻度

小学生 (n=503)

- 1. 全く読まなかった (n=44)
- 2. 1冊まではいかないが、読んだ (n=80)
- 3. 1～2冊読んだ (n=134)
- 4. 3～4冊読んだ (n=83)
- 5. 5冊以上読んだ (n=162)

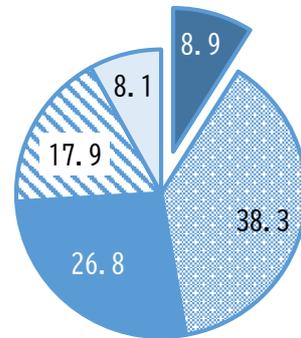


小学生：「全く読まなかった」 (n=44)



- 1. 全く利用しない (n=20)
- 2. 月に1～3回利用する (n=15)
- 3. 週に1回利用する (n=7)
- 4. 週に2～4回利用する (n=2)
- 5. 週に5回以上利用する (n=0)

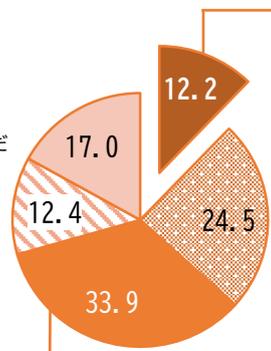
小学生：「全く読まなかった」以外 (n=459)



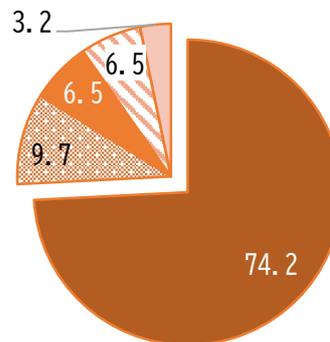
- 1. 全く利用しない (n=41)
- 2. 月に1～3回利用する (n=176)
- 3. 週に1回利用する (n=123)
- 4. 週に2～4回利用する (n=82)
- 5. 週に5回以上利用する (n=37)

中学生 (n=507)

- 1. 全く読まなかった (n=62)
- 2. 1冊まではいかないが、読んだ (n=124)
- 3. 1～2冊読んだ (n=172)
- 4. 3～4冊読んだ (n=63)
- 5. 5冊以上読んだ (n=86)

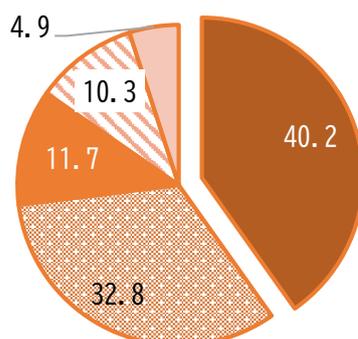


中学生：「全く読まなかった」 (n=62)



- 1. 全く利用しない (n=46)
- 2. 月に1～3回利用する (n=6)
- 3. 週に1回利用する (n=4)
- 4. 週に2～4回利用する (n=4)
- 5. 週に5回以上利用する (n=2)

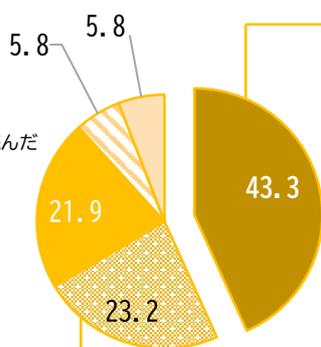
中学生：「全く読まなかった」以外 (n=445)



- 1. 全く利用しない (n=179)
- 2. 月に1～3回利用する (n=146)
- 3. 週に1回利用する (n=52)
- 4. 週に2～4回利用する (n=46)
- 5. 週に5回以上利用する (n=22)

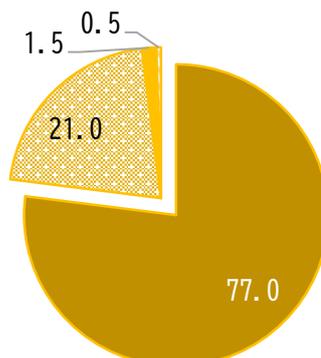
高校生 (n=462)

- 1. 全く読まなかった (n=200)
- 2. 1冊まではいかないが、読んだ (n=107)
- 3. 1～2冊読んだ (n=101)
- 4. 3～4冊読んだ (n=27)
- 5. 5冊以上読んだ (n=27)



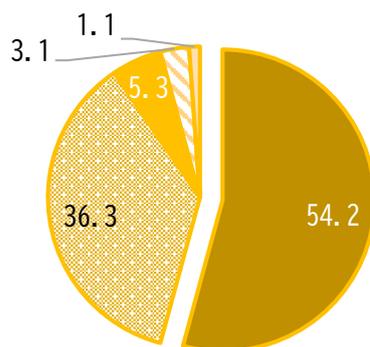
高校生：「全く読まなかった」 (n=200)

- 1. 全く利用しない (n=154)
- 2. 月に1～3回利用する (n=42)
- 3. 週に1回利用する (n=3)
- 4. 週に2～4回利用する (n=1)
- 5. 週に5回以上利用する (n=0)



高校生：「全く読まなかった」以外 (n=262)

- 1. 全く利用しない (n=142)
- 2. 月に1～3回利用する (n=95)
- 3. 週に1回利用する (n=14)
- 4. 週に2～4回利用する (n=8)
- 5. 週に5回以上利用する (n=3)



【参考】 回答者数全体に対する、「9月1か月間に、狭義の本を全く読んでおらず、学校図書館も全く利用しない児童生徒」の割合

小学生 (4～6年生)	中学生	高校生
4.0% (20人/503人)	9.1% (46人/507人)	33.3% (154人/462人)

【参考】 朝読書の実施率

(朝の読書推進協議会調べ・株式会社トーハン発表『『朝の読書』全国都道府県別実施校数一覧』より)

	実施率	内訳		
		小学生	中学生	高校生
岡山県	84%	93%	88%	42%
全国平均	76%	82%	81%	42%

9月1か月間に、狭義の本を全く読まなかった児童生徒（以下、「狭義の不読者」とする。）のうち、学校図書館も全く利用しない児童生徒については、全体の傾向と同様に校種が上がるにつれて割合が高くなったが、狭義の不読者のうち、小学生は54.5%、中学生は25.8%、高校生でも23.0%の児童生徒が、少なくとも月1回学校図書館を利用していた。

小学生は、1か月の読書冊数と学校図書館の利用頻度に正の相関がみられたが、中学生以上はその相関が弱まった。狭義の不読者以外の児童生徒のうち、小学生は8.9%、中学生は40.2%、高校生は54.2%の児童生徒が、1か月に全く本を読まなかったわけではないものの、学校図書館は全く利用していなかった。

背景として、校種が上がるにつれて、朝読書の実施率が低下したり、読み聞かせや図書の授業の時間が減少したりするなど、学校における読書意欲を刺激する因子が少なくなることが考えられる。

4 総括

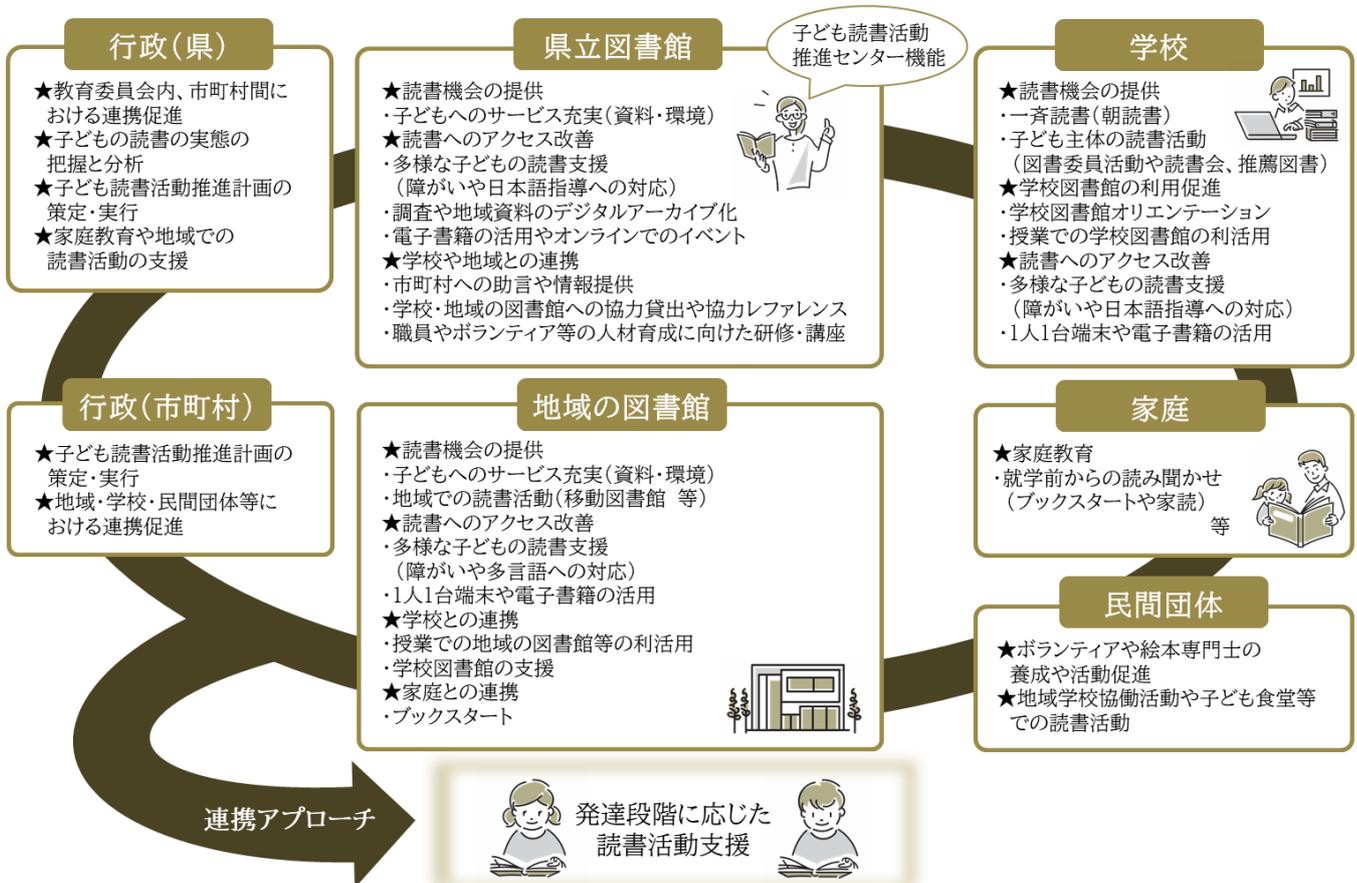
不読率については、いずれの校種でも昨年度調査より改善の傾向がみられたものの、小学生の不読率は全国平均を上回り、高校生の不読率は依然として高止まりしているため、引き続き計画的・継続的な読書推進が求められている。

1か月に全く本を読まなかった理由としては、いずれの校種でも、「読みたい本がなかったから」の回答割合が最も高く、児童生徒が興味をもてる本に出会う機会の提供が課題となっている。

読書をする児童生徒は、校種が上がるにつれて、学校や地域の図書館等で本を借りるよりも、自身で本を購入することで本を入手している傾向にあり、本や読書環境へのアクセスが発達段階に応じて変化していくことに対応していく必要がある。特に、学校図書館の利用は、校種が上がるにつれて減少傾向にある一方で、読書冊数との一定の相関がみられたことから、学校図書館を中心とした読書活動の支援も効果的であると考えられる。

また、本を「マンガ、新聞、雑誌等を含む文字が書かれたもの全て」と広く定義した場合には、紙の書籍では「文字だけが書かれた本」と「マンガ」が、電子書籍では「マンガ」がよく利用されていた。利用された本の内訳としては、紙の書籍のほうが電子書籍よりも割合が高かったものの、利用者数でみると、小学生の65.4%、中学生の46.4%、高校生の60.0%が電子書籍を利用しており、紙の書籍に加えて電子書籍も含めた多様な読書機会の提供が求められている。

今後も、県内の子どもの読書の実態や不読率の推移を継続的に把握・分析していくとともに、子どもの読書活動関係者が連携して、社会の多様化やデジタル化にも対応した幅広い読書活動を支援していく必要がある。特に、子どもにとって一番身近な場所である学校における読書活動の推進に向けて、朝読書等の一斉読書や、入学時等の学校図書館のオリエンテーション、探求的な学習活動等での図書館等の活用促進が期待されている。



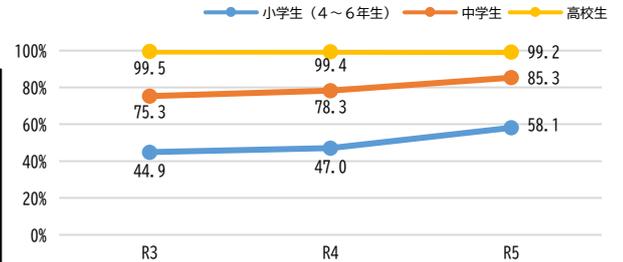
5 参考

① スマートフォンの所持と電子書籍の利用

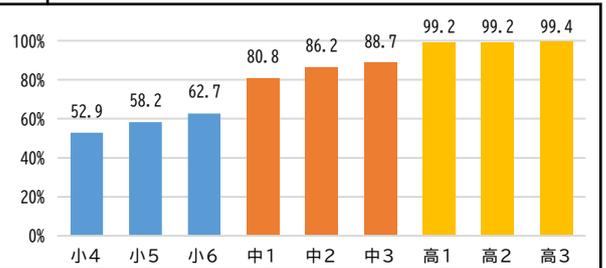
岡山県教育庁人権教育・生徒指導課「令和5年度 スマートフォン等の利用に関する実態調査の結果について」より引用する。

(1) 自分のスマホの所持率 (%) 〈単一回答〉

	R3	R4	R5	(対 R4 増減)
小学生 (4～6年生)	44.9	47.0	58.1	(+11.1)
中学生	75.3	78.3	85.3	(+7.0)
高校生	99.5	99.4	99.2	(-0.2)



小学生 (4～6年生) n=2,507	4年生	5年生	6年生
	52.9	58.2	62.7
中学生 n=2,853	1年生	2年生	3年生
	80.8	86.2	88.7
	1年生	2年生	3年生
高校生 n=1,731	99.2	99.2	99.4



(2) スマホやパソコン、タブレットの学習への利用率 (%) 〈単一回答〉

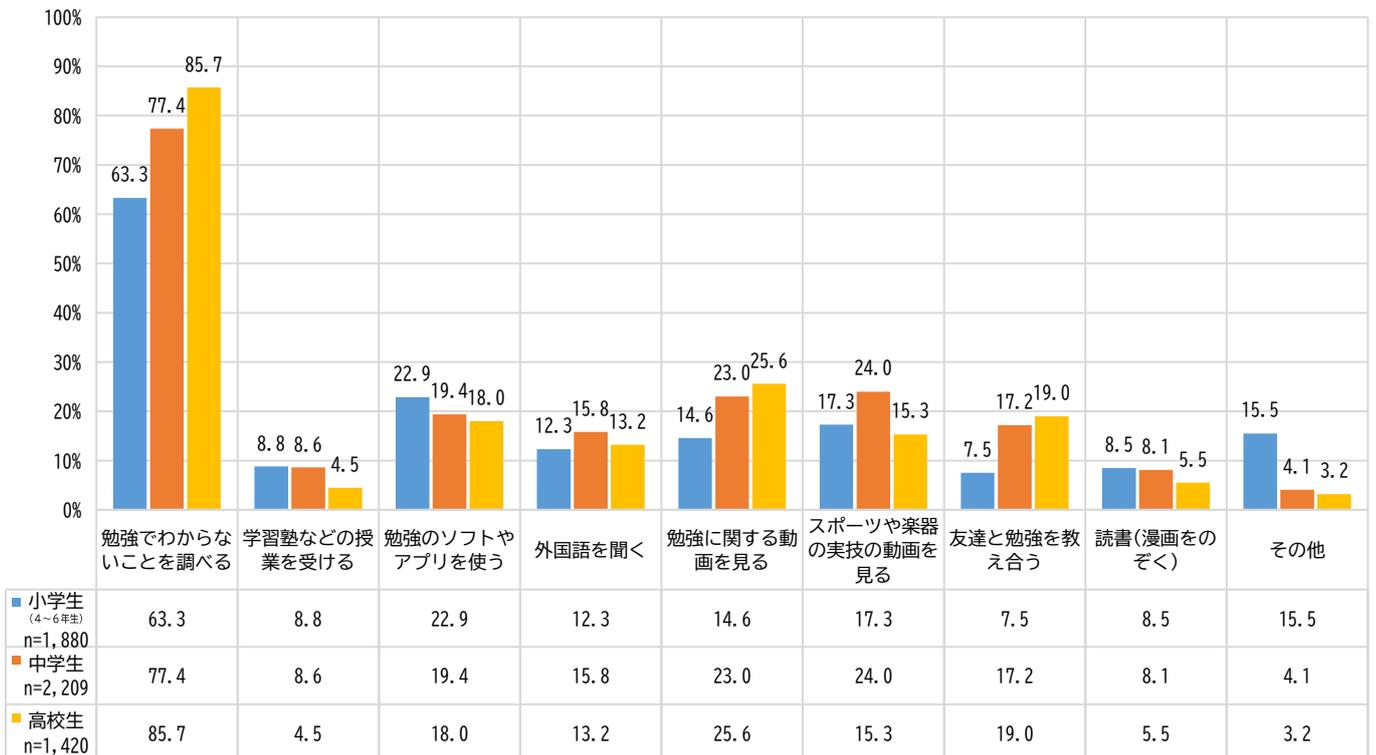
※回答対象：スマホなどを利用すると回答した児童生徒

	学習に利用する
小学生 (4～6年生) n=2,507×90.5%	82.8
中学生 n=2,853×96.0%	80.6
高校生 n=1,731×98.5%	83.3



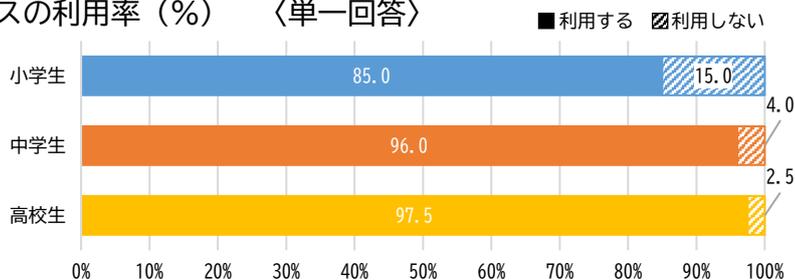
(3) 利用目的別：スマホやパソコン、タブレットの学習への利用率 (%) 〈複数回答〉

※回答対象：スマホなどを学習に利用すると回答した児童生徒



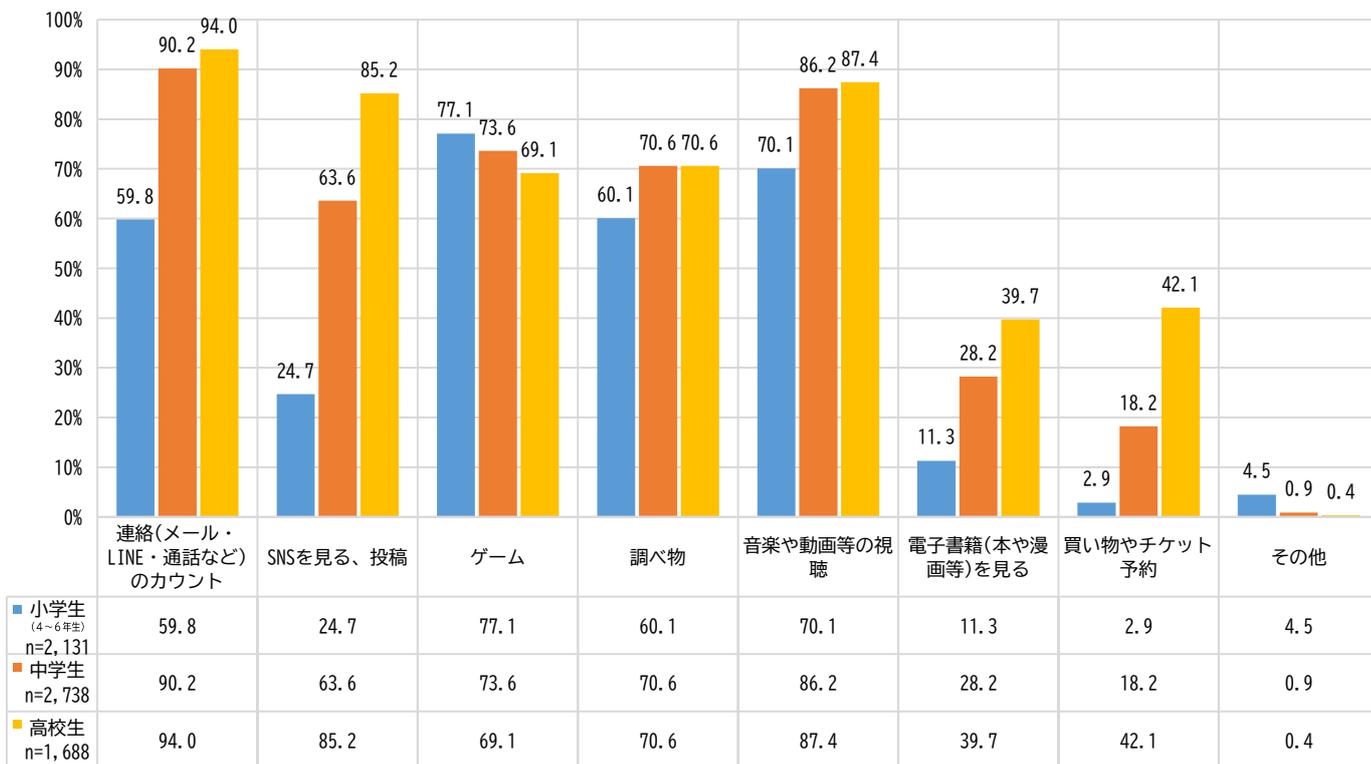
(4) ネットやコミュニケーションサービスの利用率 (%) <単一回答>

	利用する
小学生 (4~6年生) n=2,507	85.0
中学生 n=2,853	96.0
高校生 n=1,731	97.5



(6) 利用目的別：ネットやコミュニケーションサービスの利用率 (%) <複数回答>

※回答対象：ネットやコミュニケーションサービスを利用すると回答した児童生徒



② 家庭の読書環境や学校以外の読書活動

文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料【都道府県別 岡山県】」より引用する。

(1) 自分の家におよそどれくらいの本*があるか (%) <単一回答>

※ 雑誌、新聞、教科書は除く。

		0~10冊	11~25冊	26~100冊	101~200冊	201~500冊	501冊以上	無回答
小学生 (6年生)	岡山 (公立) n=15,154	16.9	22.1	32.0	15.7	9.2	4.1	0.0
	全国 (公立) n=954,575	14.6	21.3	32.2	17.0	10.2	4.7	0.0
中学生 (3年生)	岡山 (公立) n=14,175	20.8	22.0	29.9	14.3	8.9	3.4	0.6
	全国 (公立) n=871,390	18.0	21.6	31.4	15.0	9.9	3.4	0.6

(2) 放課後や週末に何をしておこなうことが多いか (%) (複数回答)

		家で勉強や読書をしている	放課後子供教室や放課後児童クラブ(小学生のみ)に参加している	学校の部活動に参加している(中学生のみ)	地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)	学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている	スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	SNSを利用したりしている	家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	家族と過ごしている	友達と遊んでいる	当てはまるものがない	無回答
小学生 (6年生)	岡山(公立) n=15,157	51.0	6.4		5.9	22.8	39.6	45.8	81.1	67.2	64.0	1.3	0.0	
	全国(公立) n=954,710	49.3	5.7		4.4	24.4	38.2	46.7	79.1	65.6	64.2	1.3	0.0	
中学生 (3年生)	岡山(公立) n=14,249	44.2		70.1	5.6	32.9	25.4	30.0	87.5	67.8	61.2	1.4	0.1	
	全国(公立) n=876,077	46.1		71.1	3.9	38.5	23.6	30.4	88.6	68.0	62.3	1.2	0.1	

6 参考文献

- 公益社団法人全国学校図書館協議会 調査研究部 (2024)「特集 子どもの読書の現状(第69回学校読書調査報告)『学校図書館』889. pp.13-41. 公益社団法人全国学校図書館協議会
- 公益社団法人全国学校図書館協議会 (2024)『『学校読書調査』の結果』公益社団法人全国学校図書館協議会. <http://www.j-sla.or.jp/material/research/dokusyotyousa.html>
- 朝の読書推進協議会 (2024)『『朝の読書』全国都道府県別実施校数一覧』株式会社トーハン. https://www.tohan.jp/wp/wp-content/themes/tohan/pdf/asadoku_school.pdf
- 岡山県教育庁生涯学習課 (2024)「子どもの読書環境に関する実態調査」岡山県庁. <https://www.pref.okayama.jp/site/16/896900.html>
 - ◇ 令和3年度 中学生の読書環境に関する実態調査の結果について(令和3年8月)
 - ◇ 令和4年度 子供の読書環境に関する実態調査の結果について(令和5年3月)
 - ◇ 令和5年度 子どもの読書環境に関する実態調査(不読率調査)の結果について(令和6年1月)
- 岡山県立図書館 (2024)「岡山県内公共図書館調査」岡山県立図書館. <https://www.libnet.pref.okayama.jp/libnet/koukyou/index.htm>
 - ◇ 令和2年度(令和2年10月)、令和3年度(令和3年10月)、令和4年度(令和4年10月)、令和5年度(令和5年10月)、令和6年度(令和6年10月)
- 「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成十三年十二月十二日法律第五十四号)
- 文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課図書館・学校図書館振興室 (2023)「第五次『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』について」文部科学省. https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00072.html
- 岡山県教育庁人権教育・生徒指導課 (2024)「令和5年度 スマートフォン等の利用に関する実態調査の結果について」岡山県庁. https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/916905_8770422_misc.pdf
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2024)「令和6年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料【都道府県別岡山県】」国立教育政策研究所. https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/factsheet/33_okayama/index.html
 - ◇ 小学校 回答結果集計 [児童質問調査] 岡山県一児童(公立)【表】・【グラフ】…小6対象 問(23)・(26)
 - ◇ 中学校 回答結果集計 [児童質問調査] 岡山県一児童(公立)【表】・【グラフ】…中3対象 問(23)・(26)